

# YAMAHA

## Clavinova®

### CVP-75

### 取扱説明書

### (応用編)

もくじ	
・各部の名称とはたらき	1
1. 音色と効果について	9
・各音色の推奨音域	9
・打楽器(キーボード・パーカッション)について	11
・ペダルを使う	13
・リバーブの深さを変える	14
・音像定位を変える(パンポット機能)	15
・2つの音色を混ぜる(デュアル機能)	16
・2つの音色を選んで弾く(スプリット機能)	17
・音程を変える(トランスポーズ)	19
2. 自動伴奏(ピアノABC)で楽しもう	20
・リズムスタイルを選ぶ	20
・内蔵のリズムスタイルを選ぶ場合	20
・ディスクスタイル内のリズムスタイルを選ぶ場合	21
・自動伴奏(ピアノABC)モードにする	22
・リズムの速さを指定する	22
・音色を指定する	23
・音量(ボリューム)について	23
・スタートのパターン選択	24
・演奏をスタートさせる	25
・フィルインを入れる	26
・演奏をストップさせる	26
・フルキーボードABCで演奏	27
・転回テクニックで楽々演奏	28
3. ソロスタイルで楽しもう	29
・ソロスタイルプレイモードにする	29
・スタイルを選ぶ	29
・スタイルを変更する	29
・演奏をスタートさせる	30
・演奏をストップさせる	30
4. リズムパターンを作ろう(カスタムリズム)	31
・カスタムリズムを作成する(1)	31
・カスタムリズムを作成する(2)	33
・カスタムリズムを再生させる	35
・記憶させたカスタムリズムを消去する	36
・カスタムリズムをフロッピーディスクに保存する	37
・カスタムリズムをフロッピーディスクから呼び戻す	38
5. ディスクオーケストラについて	39
・自動演奏させる	39
・ディスクオーケストラに合わせて練習(レッスン機能)	41
・ガイドランプにしたがって弾く(ガイド機能)	42
・苦手なフレーズを繰り返し練習(フレーズリピート機能)	44
・リピート練習する(A-Bリピート機能)	45
・録音用ディスクへのコピー(マイレパートリーづくり)	45
6. 演奏を録音/再生する(パフォーマンスメモリー)	47
・フロッピーディスクについて	47
・録音する前に	48
・フォーマット(初期化)する	48
・演奏を録音する	50
・トラック1に録音する	50
・トラック2に録音する	52
・トラック3~10に録音する	52
・演奏を再生させる	53
・記録内容について	54
・多重録音について	54
・ピアノABC録音をする①	55
・ピアノABC録音をする②(コードシーケンス)	56
・コードシーケンスについて	56
・コードを録音する	56
・ディスクの編集	58
・ディスクコピー①(同じディスク内でのコピー)	58
・ディスクコピー②(別のディスクへのコピー)	59
・内容を消去する(デリート)	60
7. その他の機能	61
・他の楽器と音程を合わせる(ピッチコントロール)	61
・タッチの感度を変える	62
・各鍵ごとにチューニングを設定する	63
・パネル上の設定を記憶させる(レジストレーション)	63
・他の機器と接続する	67
8. MIDI機能でステップアップ	69
・MIDIとは?	69
・CVP-75のMIDI端子	69
・MIDIでできること	70
・MIDI関係の設定・機能	71
・MIDIインプリメンテーションチャート	75
9. 資料	79
・発音数一覧表	79
・CVP-75の組み立て方	80
・楽譜の読み方	81
・楽譜(いとしのエリー)	82
・オプション(別売品)のご紹介	83
・おかしいな?と思ったら	84
・仕様	85
・エラーメッセージ一覧表	86
・アフターサービスと保証	87

# ●各部の名称とはたらき

## A. 基本操作部

- ①パワー(電源)スイッチ(→基本編5ページ)
- ②マスターボリューム(音量調節)(→基本編5ページ)
- ③リバーブ(残響)ボタン(→14、基礎編12ページ)
- ④レフトペダルファンクションボタン  
(→13ページ)
- ⑤MIDI/トランスポーズ(移調)ボタン  
(→19、70～74ページ)

## B. リズムスタイル部

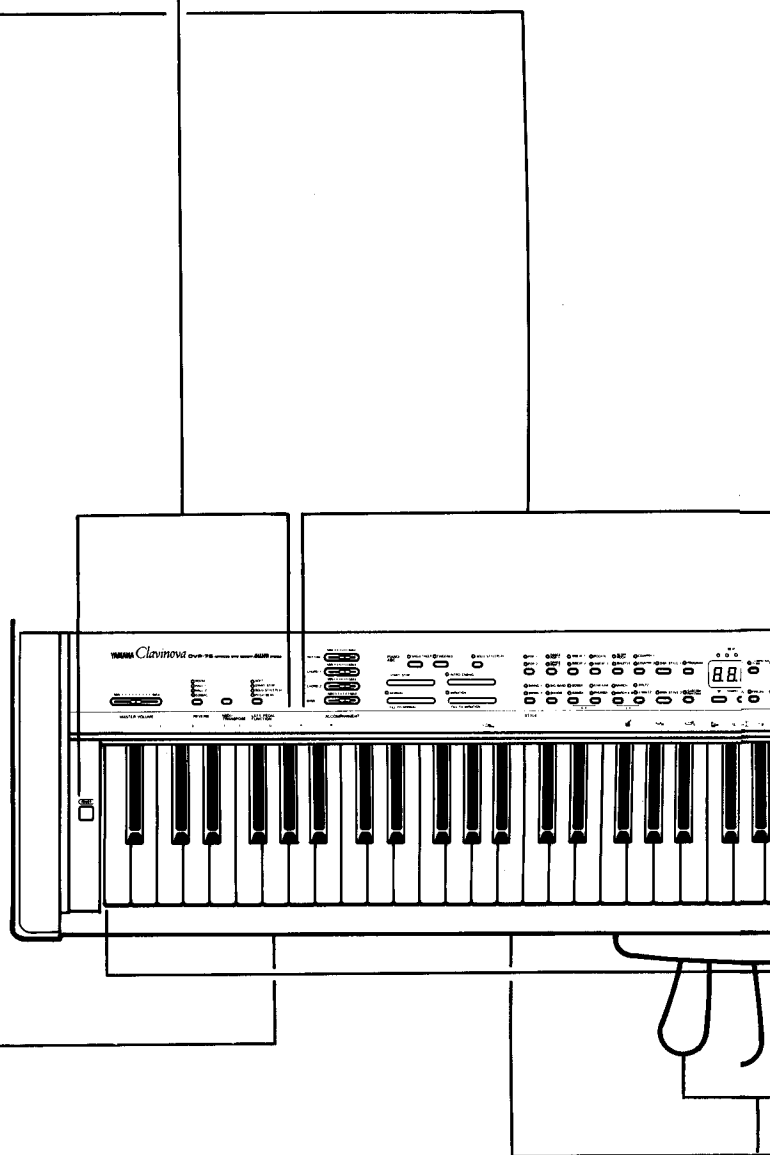
- ⑥リズムボリューム(→23、40ページ)
- ⑦コード1,2ボリューム(→23、40ページ)
- ⑧ベースボリューム(→23、40ページ)
- ⑨ピアノABCボタン(→22、27、55ページ)
- ⑩ソロスタイルプレイボタン(→29ページ)
- ⑪スタート/ストップボタン(→25、26ページ)
- ⑫イントロ/エンディングボタン(→24、26ページ)
- ⑬フィル トゥ ノーマルボタン、  
フィル トゥ バリエーションボタン(→26ページ)
- ⑭スタイルボタン(→20、29ページ)
- ⑮プログラムボタン(→31ページ)
- ⑯カスタムリズムボタン(→35ページ)
- ⑰ビート(拍子)ランプ(→25ページ)
- ⑱テンポ表示器(→22ページ)
- ⑲テンポボタン(→22ページ)

## H. 端子部

- ⑳マイク端子(→67ページ)
- ㉑マイクボリュームつまみ(→67ページ)
- ㉒ヘッドホン端子(→67ページ)

ヘッドホンを接続する端子です。2本まで接続できます。

ヘッドホンを使うと、CVP-75のスピーカーからは音が出なくなりますから、夜間でも周りに迷惑をかけることがありません。



フィルインバー(→26ページ)

操作を間違えた時は、もう一度  
最初の手順からやり直してください。

CVP-75は、各機能のグループごとにパネル上のボタンが別れています。ここではそのグループごとに説明します。

→マークの応用編のページでくわしく説明してあります。

### C. 音色部

- ②⑩ ボイス(音色)ボタン(→11、16、17、23、基礎編9ページ)
- ②⑪ スプリットボタン(→17ページ)

### D. ディスクオーケストラ部

- ②② ユーズランプ(→48ページ)
- ②③ ディスク挿入口(→39ページ)
- ②④ ディスク取り出しボタン(→48ページ)
- ②⑤ ソングナンバー(曲番号)表示器(→39ページ)
- ②⑥ ソングナンバー(曲番号)ボタン(→39ページ)
- ②⑦ ディスクオーケストラボタン(→39～46ページ)

### G. その他

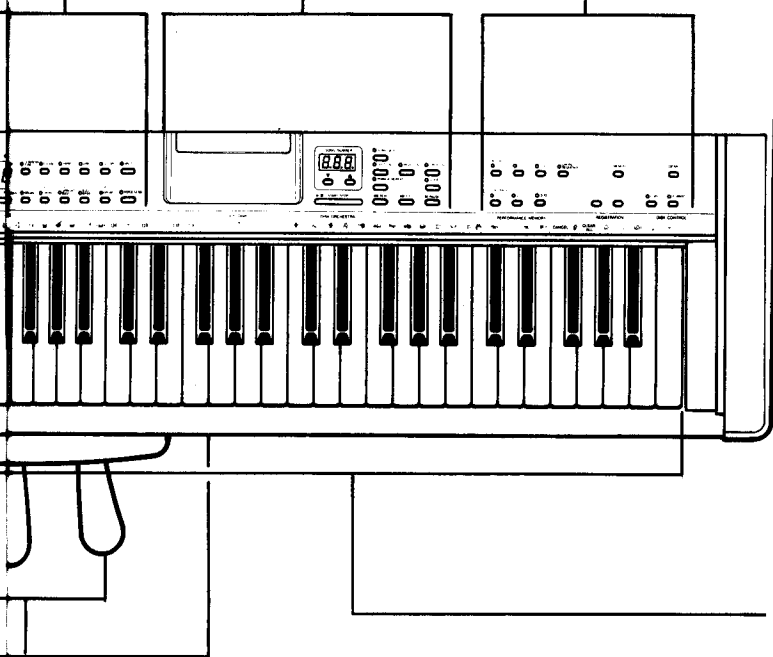
- ③④ パフォーマンスメモリーボタン(→50～55ページ)
- ③⑤ コードシーケンスボタン(→56ページ)
- ③⑥ レジストレーションボタン(→65ページ)
- ③⑦ ディスクコントロールボタン(→46、49、58～60ページ)
- ③⑧ デモボタン(→基本編7ページ)

### E. 鍵盤部

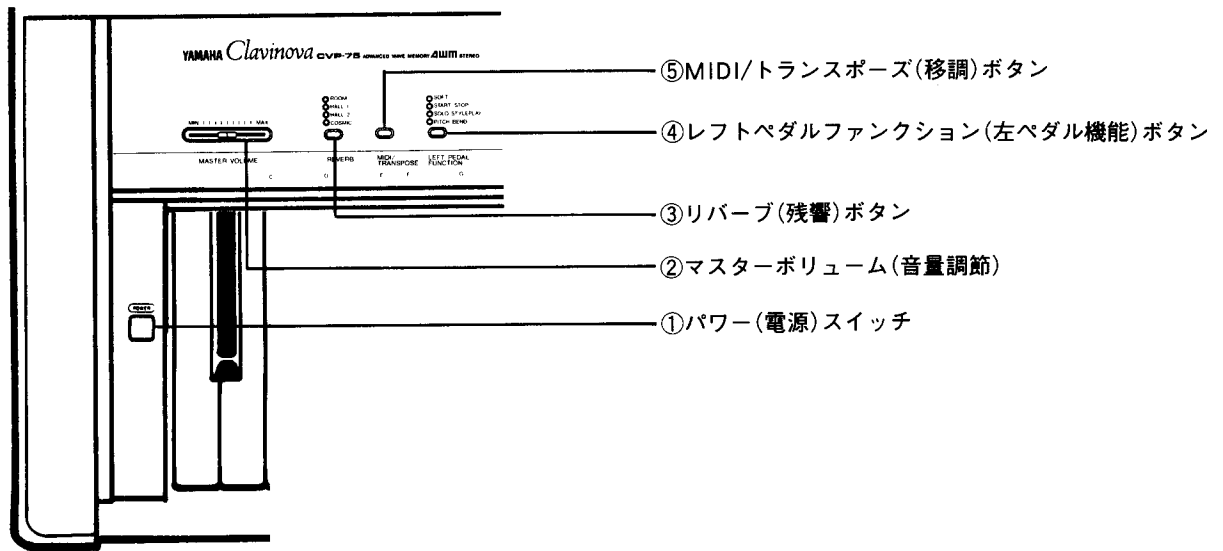
- ②⑧ コードシーケンス入力用鍵盤(→57ページ)
- ②⑨ ドラム音色使用時用鍵盤(→11ページ)
- ③⑩ 低音側鍵盤(→17、22、25、30、57ページ)

### F. ペダル部

- ③① レフトペダル(→基本編11ページ)
- ③② ソステヌートペダル(→基本編11ページ)
- ③③ ダンパーペダル(→基本編11ページ)



## A. 基本操作部



①パワー(電源)スイッチ(→基本編5ページ)  
電源を入れたり、切ったりするスイッチです。

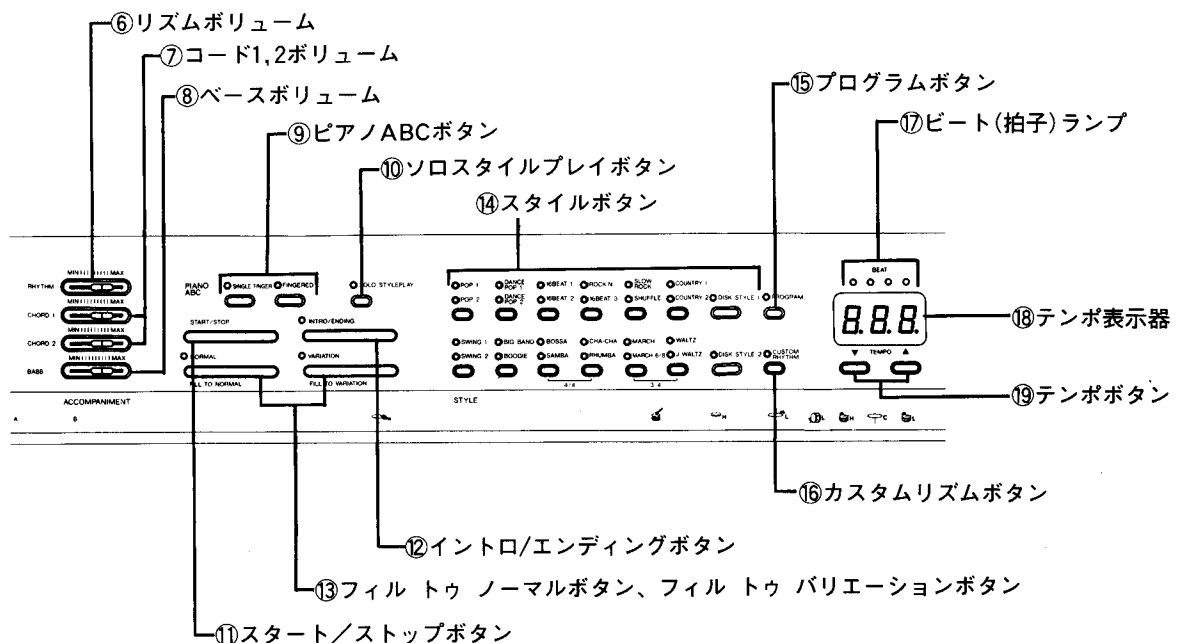
②マスターボリューム(音量調節)(→基本編5ページ)  
全体の音量を調節するレバーです。右の方にずらすほど音が大きくなり、左端では音が出なくなります。

③リバーブ(残響)ボタン(→14、基礎編12ページ)  
リバーブをかけることができます。リバーブをかけると、音の響きが豊かになります。  
4種類の中から好みの響きを選ぶことができます。

④レフトペダルファンクション(左ペダル機能)ボタン(→13ページ)  
左ペダルの機能を切り替えるボタンです。電源スイッチを入れた時はソフトペダルとして機能するようになっています。

⑤MIDI/トランスポーズ(移調)ボタン(→19、70～74ページ)  
MIDI(ミディ)機能の設定をする時や、トランスポーズ(移調)の設定をする時に使用します。  
また、他のボタンと組み合わせることで、さまざまな機能の設定をすることができます。

## B. リズムスタイル部



⑥リズムボリューム(→23、40ページ)

リズム音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

⑦コード1,2ボリューム(→23、40ページ)

基本的に、コード音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

基本的に、コード1のボリュームではリズム的なコード音の音量を調節でき、コード2のボリュームではメロディー的なコード音の音量を調節できます。

⑧ベースボリューム(→23、40ページ)

基本的に、ベース音の音量を調節するレバーです。右にずらすほど音が大きくなります。

また、MIDI/トランスポートボタンを押しながら、このレバーを操作すると、手弾き音の音量を調節することができます。

⑨ピアノABCボタン(→22、27、55ページ)

リズム、コード、ベースによる自動伴奏をさせる時に使用するボタンです。シングルフィンガーボタンを押してランプを点灯させると指1本で、フィンガードボタンを押してランプを点灯させると普通のコードの押さえ方で、自動伴奏させることができます。シングルフィンガーボタンとフィンガードボタンを同時に押して2つのランプを点灯させると、ピアノ奏法で自動伴奏させることができるフルキーボードABCモードになります。

※ABCはオートベースコードの略です。

⑩ソロスタイルプレイボタン(→29ページ)

このボタンを押すと、それぞれのリズムスタイルに合わせた各パートの音色・リズム・ピアノABCが自動的にセットされます。

あれこれとボタンを押してアンサンブルの設定をしなくても、瞬時にセットアップして演奏できる機能です

⑪スタート/ストップボタン(→25、26ページ)

リズムやピアノABCをスタートまたは停止させる時に押します。

また、パフォーマンスメモリーを使う時にも使用します。

⑫イントロ/エンディングボタン(→24、26ページ)

イントロのパターンでリズムをスタートさせたり、エンディングのパターンでリズムを停止させる時に押します。

⑬フィル トウ ノーマルボタン、

フィル トウ バリエーションボタン(→26ページ)

リズムやピアノABCにフィルインのパターンを入れる時に押します。2つのボタンのフィルインパターンは異なります。

なお、フィルイン後のパターンも異なり、ノーマルでは普通のパターン、バリエーションでは盛り上がり(サビ)のパターンになります。また、フィルインおよびバリエーションパターンは、サビだけに限らず、最初から使ってもかまいません。

※フィルは、メロディーラインの空白部分などを装飾するリズムパターンのことです。

⑭スタイルボタン(→20、29ページ)

内蔵リズムの24種類または付属のディスクスタイル内の40種類の中から、リズムスタイルを選ぶことができます。また、4/4または3/4拍子のメトロノームを選ぶこともできます。

⑮プログラムボタン(→31ページ)

自分でリズムパターンを作る時に押します。ボタンを押してランプを点灯させると、リズム作成が可能になります。2小節のリズムパターンを12ヶまで記憶させることができます。

⑯カスタムリズムボタン(→35ページ)

自分で作ったリズムパターンを記憶させた後に、そのリズムを呼び出す時に押します。

⑰ビート(拍子)ランプ(→25ページ)

拍子を目で確認できます。1番左が1拍目で赤色点灯、2,3,4番目が2,3,4拍目で緑色点灯します。

⑱テンポ表示器(→22ページ)

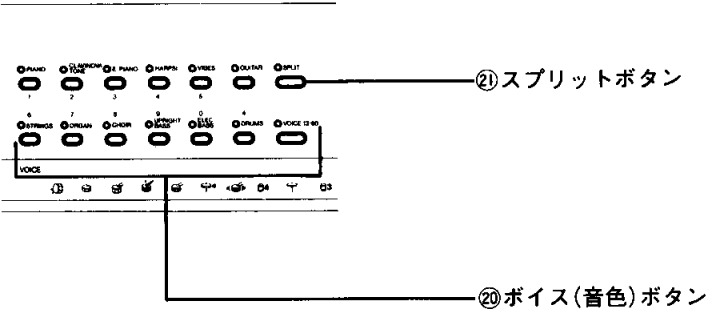
リズム停止時とテンポ調節時にはリズムの速さ(テンポ)を表示し、リズムスタート後はリズムをスタートさせてからの小節数を表示します。また、音色番号13~60の番号表示もします。

その他、様々な設定の表示をします。

⑲テンポボタン(→22ページ)

リズムの速さ(テンポ)を調節できます。右側のボタン▲を押すと速くなり、左側のボタン▼を押すと遅くなります。また、13~60いずれかの音色を選ぶ時にも使用します。このボタンは、普通に押すと1ステップずつ変化しますが、強く押すと速いスピードで変化するようになっています。

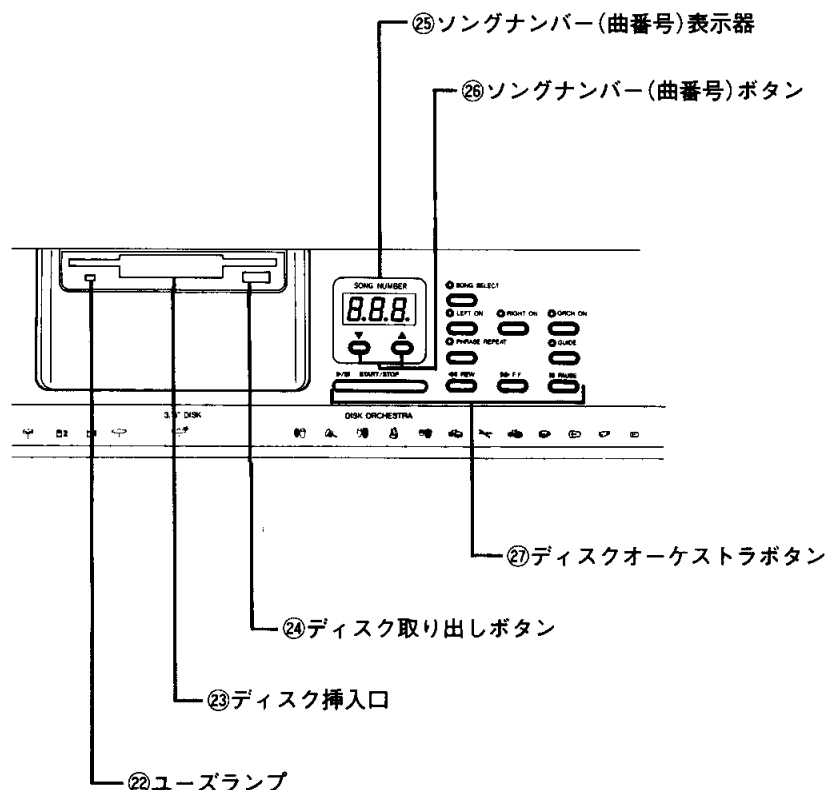
# C. 音色部



②① ボイス(音色)ボタン(→11、16、17、23、  
基礎編9ページ)  
演奏に使う音色を選ぶことができます。  
ボイスボタン上に表示されているのは12種類の音色  
だけですが、音色番号13～60の音色を選ぶこともで  
きます。  
選んだ音色のランプが点灯しますが、音色番号13以  
降の音色を選んだ時は、ボイス13-60ボタンのラン  
プが点灯します。  
なお、ドラムスを選んだ場合には41種類の打楽器音  
を使って、自分でリズムパートを演奏することがで  
きます。(ドラムスにした時の各鍵盤への打楽器の  
割付が、鍵盤上部にイラストで示されています。)  
また、1～0までの音色ボタンは、音色を選ぶ時など  
の数字ボタンの役割もします。

②① スプリットボタン(→17ページ)  
低音部を高音部と異なった音色で鳴らしたい時にオ  
ンにします。低音部の音色は、このボタンを押しな  
がら、希望する音色のボタンを押して指定します。  
低音部と高音部の境(低音部の上限)は、このボタン  
を押しながら、境にしたい鍵盤を押すことにより変  
更できます。

## D. ディスクオーケストラ部



### ②② ユーズランプ (→48ページ)

CVP-75とディスクの間でデータがやりとりされている時に点灯するランプです。

### ②③ ディスク挿入口 (→39ページ)

フロッピーディスクを差し込むところです。

### ②④ ディスク取り出しボタン (→48ページ)

フロッピーディスクを取り出す時に押すボタンです。

### ②⑤ ソングナンバー (曲番号) 表示器

(→39ページ)

パフォーマンスメモリーやディスクオーケストラの状態で曲番号やフレーズ番号を指定すると、それらの番号を表示します。

その他、様々な設定の表示をします。

### ②⑥ ソングナンバー (曲番号) ボタン

(→39ページ)

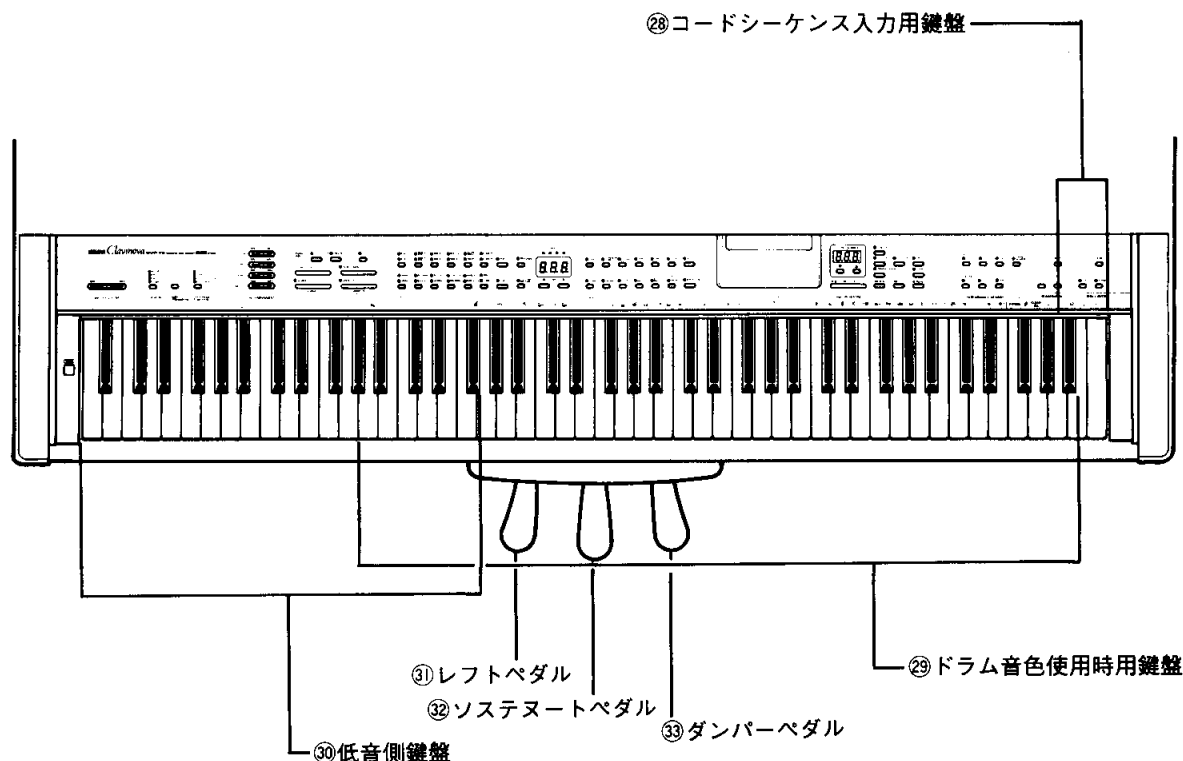
パフォーマンスメモリーやディスクオーケストラでの、曲番号やフレーズ番号の指定に使用します。また、ディスクコントロールの設定でも使用します。

### ②⑦ ディスクオーケストラボタン (→39～46ページ)

クラビノーバ用音楽ソフト「ディスクオーケストラコレクション」に収められている曲を自動演奏させたり、それを使って練習する時に使用します。

## E. 鍵盤部

## F. ペダル部



### ②⑧コードシーケンス入力用鍵盤(→57ページ)

自分でコード進行を録音する時に、そのコードを1ステップごとに入力するのに、これらの各鍵盤を使用します。

### ②⑨ドラム音色使用時鍵盤(→11ページ)

ドラムスの音色を指定すると、自分でリズムパートを演奏することができます。これらの各鍵盤に41種類の打楽器音が割り付けられており、鍵盤上部にイラストで表示されています。

### ③⑩低音側鍵盤(→17、22、25、30、57ページ)

電源を入れた時は、F<sup>#</sup><sub>2</sub>より左側の鍵盤が低音側鍵盤になります。(ピアノABCまたはスプリットの状態にした時、ガイドランプがスプリットポジションを点灯表示します。)

ピアノABCやスプリット演奏など、低音部の音色が高音部と異なる場合のみ関係します。低音部と高音部の境界線(スプリットポジションといいます)は、電源を入れた時はF<sup>#</sup><sub>2</sub>ですが、自由に位置を変更できます。その位置から左側の鍵盤が、低音側鍵盤となります。

### ③①レフトペダル(→基礎編11ページ)

このペダルの機能は、5種類の中から選択できます。

### ③②ソステヌートペダル(→基本編11ページ)

このペダルを踏むと、ペダルを踏んだ時に押さえていた鍵盤の音だけに余韻がつきます。ストリングスやオルガンなど、持続音系の音色の場合は音が伸び続けます。

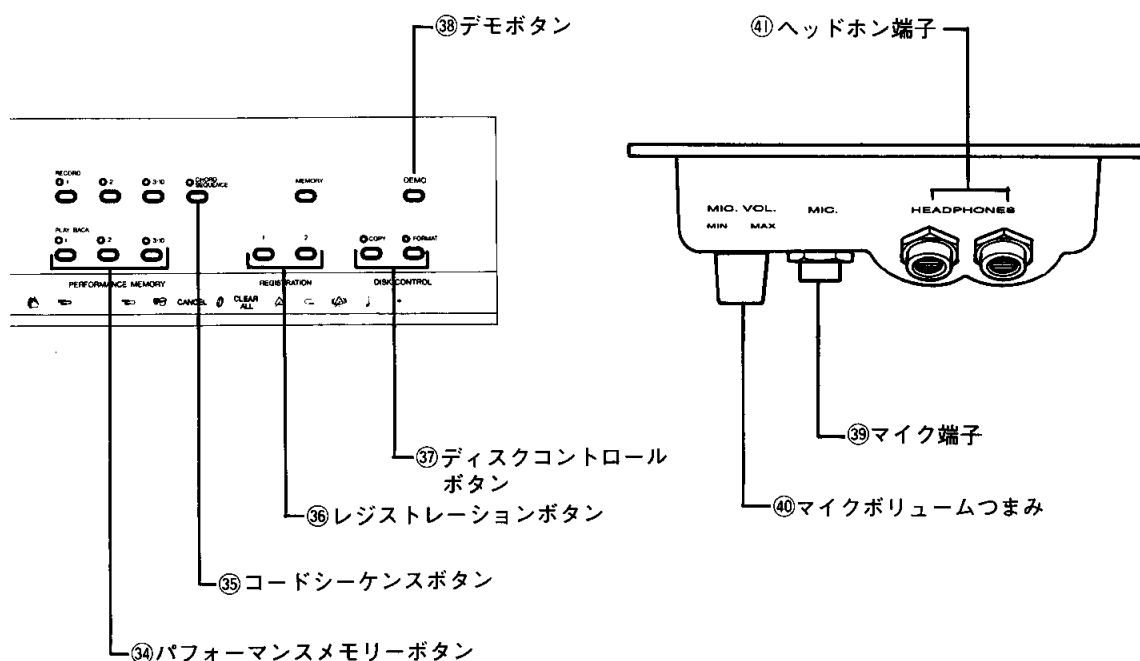
### ③③ダンパーペダル(→基本編11ページ)

このペダルを踏むと、ドラムス、ティンパニ/オーケストラヒットを除く音色に余韻がつきます。



## G. その他

## H. 端子部



### ③④ パフォーマンスメモリーボタン(→50～55ページ)

録音用のフロッピーディスクを使用して自分の演奏を録音したり、後でそれを聴いたり、それに合わせて演奏する時に使用するボタンです。

“1”、“2”、“3-10”のように3つのボタンに割り付けられた10ヶのトラックがありますが、1つの曲の楽器編成(パート)を10トラックに分けて録音することができます。

たとえば、レコード2ボタンを押すとトラック2に演奏を録音可能になり、プレイバック2ボタンを押すとトラック2に録音済みの演奏が再生可能になります。

### ③⑤ コードシーケンスボタン(→56ページ)

自分でコード進行を録音する時に押します。

### ③⑥ レジストレーションボタン(→65ページ)

音色や音量、リズムの種類、テンポ、ピアノABCの状態…など、パネル上の設定を2セットまで記憶させることができ、記憶させた番号のボタンを押すことにより、その状態を呼び出すことができます。

### ③⑦ ディスクコントロールボタン

(→46、49、58～60ページ)

パフォーマンスメモリー等で使うフロッピーディスクのフォーマットや、録音した曲やデータをコピーする時に使用します。

### ③⑧ デモボタン(→基本編7ページ)

CVP-75には、デモンストレーション曲が24曲入っています。そのデモ演奏を聴く時に使用します。

デモ演奏スタート後にもう一度押すとデモ演奏はストップし、デモ演奏を聴く状態が解除されます。

### ③⑨ マイク端子(→67ページ)

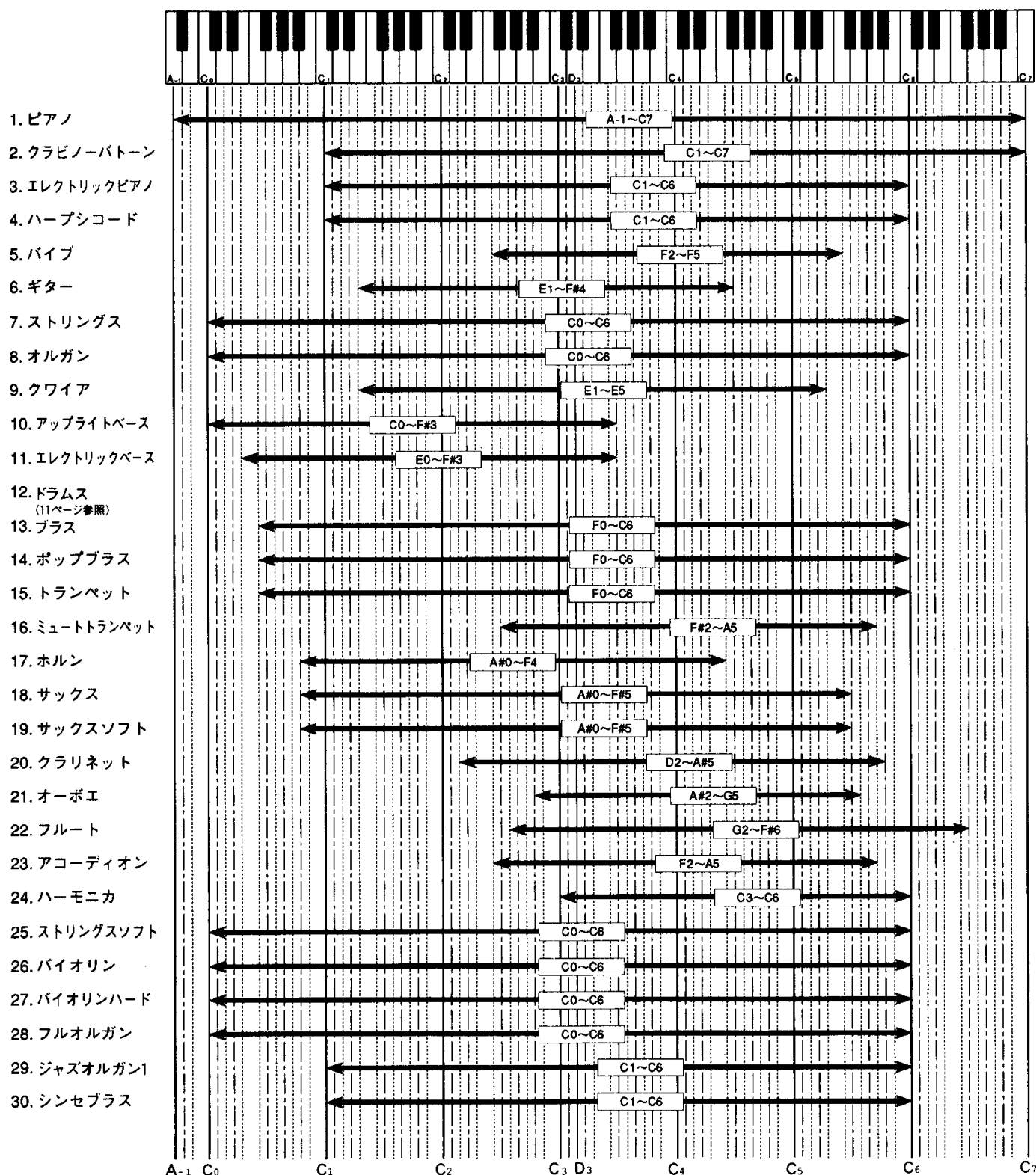
### ④② マイクボリュームつまみ(→67ページ)

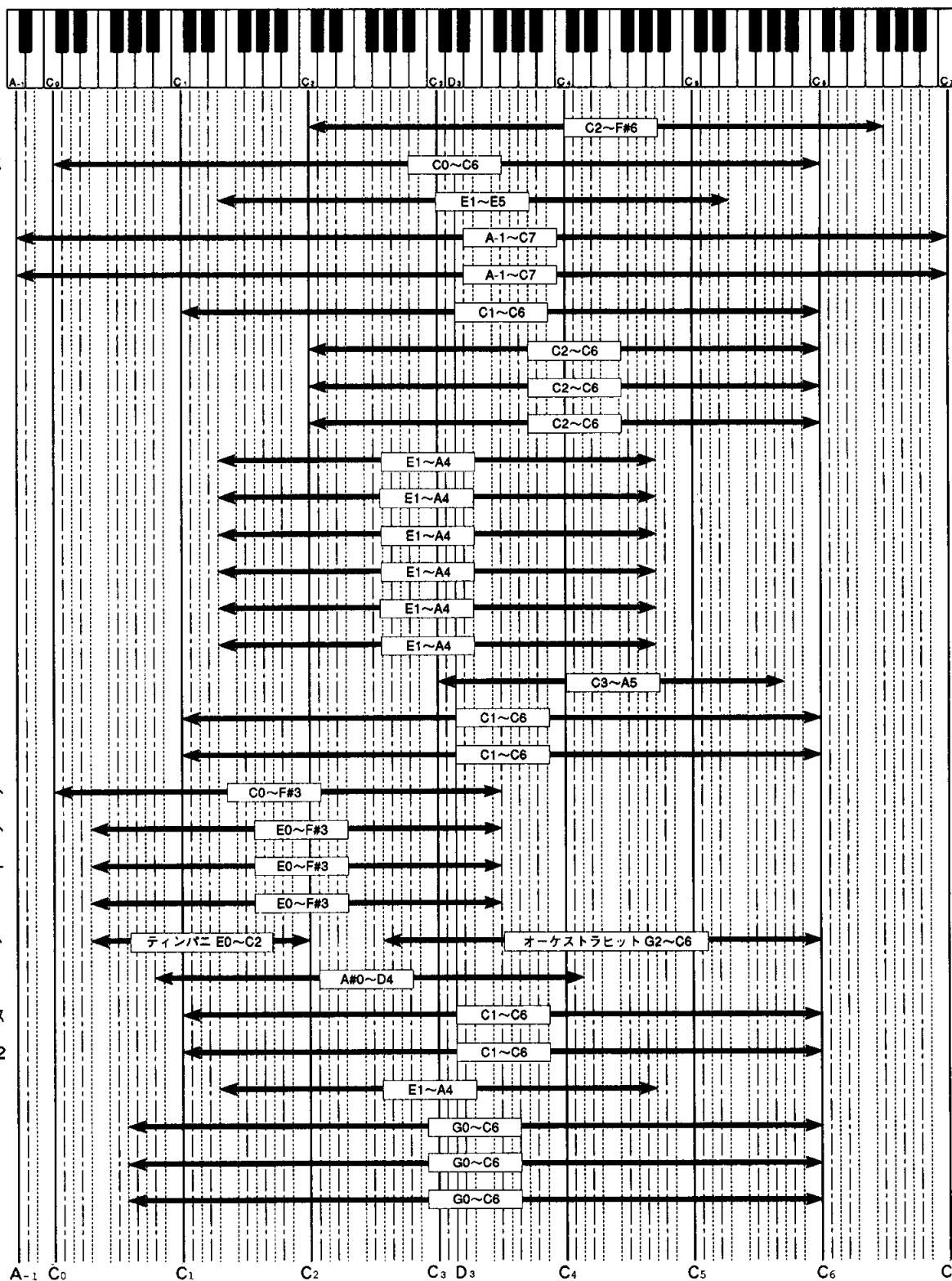
### ④① ヘッドホン端子(→67ページ)

# 1. 音色と効果について

## ●各音色の推奨音域

CVP-75には、次の60種類の音色が内蔵されています。それぞれの推奨音域内で演奏すると、その音域名に合ったイメージが得られます。





#### 【こんなこともできる！】

- ・13～60の範囲の音色指定方法には、基本編で紹介した方法と別にもう1つあります。  
ドラムスボタンを押しながらボイスボタンの1～0を押して指定する方法です。最初に10の位の値を表示させ、次に1の位の値を表示させます。  
たとえば27番の音色を指定する場合は、ドラムスボタンを押しながら、2(クラビノーバトーン)ボタンを押し、引続きドラムスボタンを押したまま、7(オルガン)ボタンを押します。
- ・ボイス13-60ボタンを押しながら、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、13番(プラス)の音色が呼び出されます。

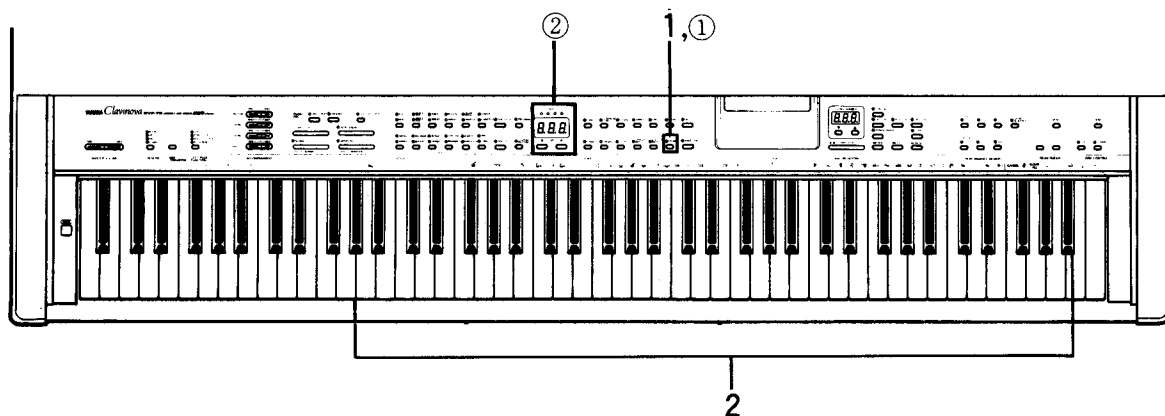
#### 【補足】

- ・基本編の10ページに音色一覧表があります。
- ・音色によっては、同系統別楽器の音色になっているものがあります。  
(例) 音色番号15 トランペットの低域は、トランペット、トロンボーン、チューバとつながっています。  
音色番号26 バイオリンの低域は、チェロ、コントラバスとつながっています。  
音色番号47 ピチカートは、バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスとつながっています。

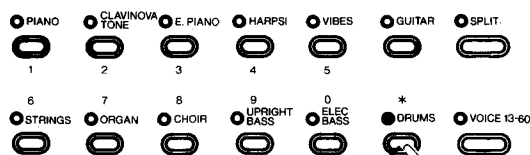
# ●打楽器（キーボードパーカッション）について

鍵盤の上方に41種類の打楽器等の絵があります。音色をドラムスにして押鍵することにより、これらの各打楽器等の音を出すことができます。

また、下記のd1(アコースティック)の割り付けから、d2やd3、d4の割り付けに切り替えることもできます。



## 1 ボイスボタンのドラムスを押します。

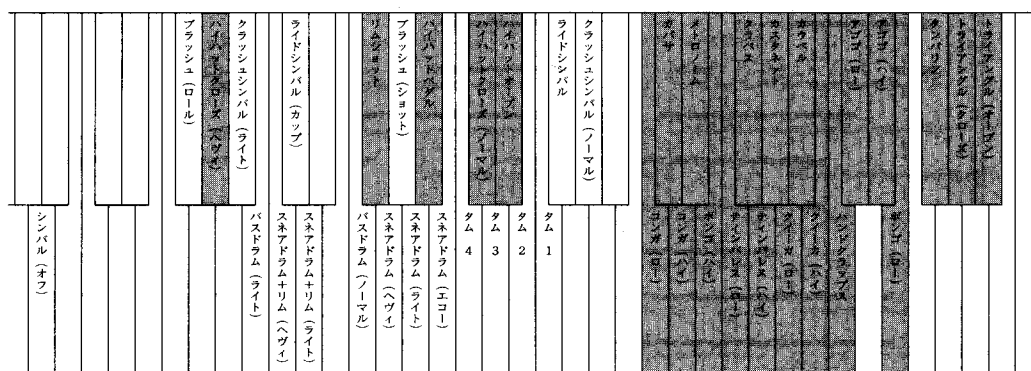


ランプを点灯させる。

## 2 演奏します。

A<sub>1</sub>～A<sub>6</sub>の各鍵盤に打楽器等が割り付けられていますので、目的の鍵盤を押して演奏します。

d1(アコースティック)の場合



### [こんなこともできる！]

- ・シンバルの音を短くしたい時は、シンバルの鍵盤を押した後、シンバルオフ(A<sub>1</sub>)の鍵盤を押してください。シンバルオフの鍵盤を押した瞬間にシンバルの音が切れます。

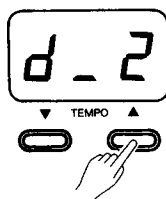
### [補足]

- ・電源投入時はd1(アコースティック)に戻ります。
- ・d3およびd4は、d1とキーのタッチおよび音量バランスが異なります。

①ボイスボタンのドラムスを押しながら、



押すごとにd1～d4が繰り返されます。

[illegible]

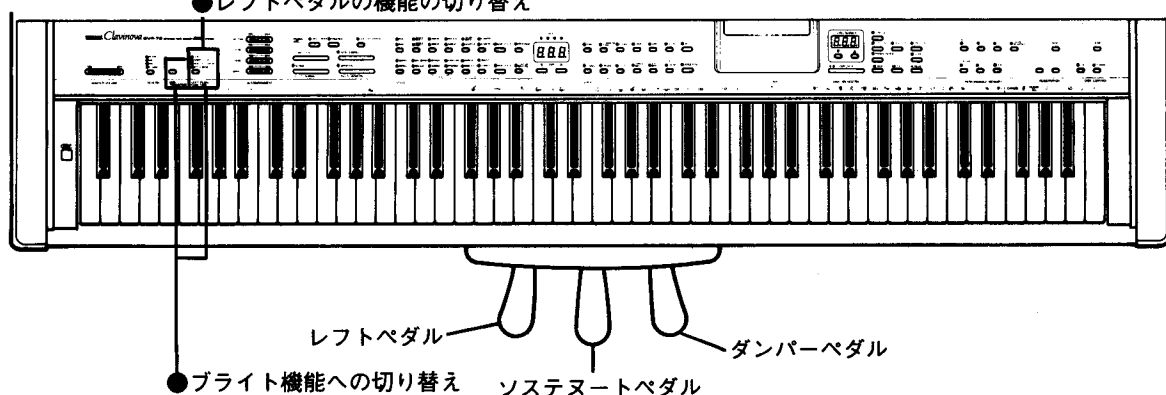
の音色は、d1(アコースティック)とd2(エレクトリック)の共通音色です。

鍵盤	打楽器
G <sub>4</sub>	エレクトリックタム3
A <sub>4</sub>	エレクトリックタム2
A <sup>#</sup> <sub>4</sub>	クラッシュシンバル(ノーマル)
B <sub>4</sub>	エレクトリックタム1

鍵盤	打楽器
A <sup>#</sup> <sub>1</sub>	ベルツリー
C <sup>#</sup> <sub>2</sub>	オーケストラシンバル
G <sub>4</sub>	エレクトリックタム3
A <sub>4</sub>	エレクトリックタム2
A <sup>#</sup> <sub>4</sub>	クラッシュシンバル
B <sub>4</sub>	エレクトリックタム1
D <sub>6</sub>	フィンガースナップ

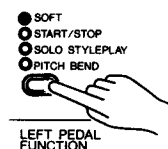
## ●ペダルを使う

### ●レフトペダルの機能の切り替え



### ●レフトペダルの機能の切り替え

レフトペダルファンクションボタンを押して、希望する機能の選択ができます。ボタンを押すごとに順に切り替わります。なお、電源投入時はソフト機能としての働きに戻ります。



- ・ **ソフト：**  
ペダルを踏むと、音の響きがやわらかくなります。
- ・ **スタート/ストップ：**  
リズムが止まっている時にペダルを踏むとリズムがスタートし、もう一度踏むと止まります。
- ・ **ソロスタイルプレイ：（29ページ参照）**  
ソロスタイルプレイボタンが押されている時のみ、この機能を選択できます。  
ペダルを踏んでいる間だけ、左手のコードに基づいて右手の演奏音に装飾音がつきます。
- ・ **ピッチベンド：**  
ペダルを踏むことで、音程を微妙に変化させることができます。  
レフトペダルを踏むと音程が下がり、ソステヌートペダルを踏むと音程が上がります。

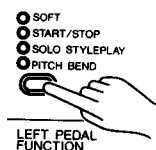
### ●ブライ機能への切り替え

レフトペダルおよびソステヌートペダルを、ブライ機能の働きに切り替えることができます。

#### ①MIDI/トランスポーズボタンを押しながら



#### ②レフトペダルファンクションボタンを押すと、ランプが全て消灯してブライ機能になります。



- ・ ブライは、レフトペダルを踏むと音の響きが柔らかくなり、ソステヌートペダルを踏むと音の響きが明るくはなやかになる効果です。
- ・ 下記の〔補足〕の項で示す音色以外は、ブライ効果をかけることができません。または、音の響きを柔らかくすることはできませんが、明るくはなやかにすることはできません。
- ・ レフトペダルファンクションボタンのみ押すことにより、レフトペダルファンクションの機能に戻すことができます。

#### 【注意！】

- ・ レフトペダルファンクションでソロスタイルプレイ機能が選ばれている時は、ソステヌートペダルは、機能しません。

#### 【アドバイス！】

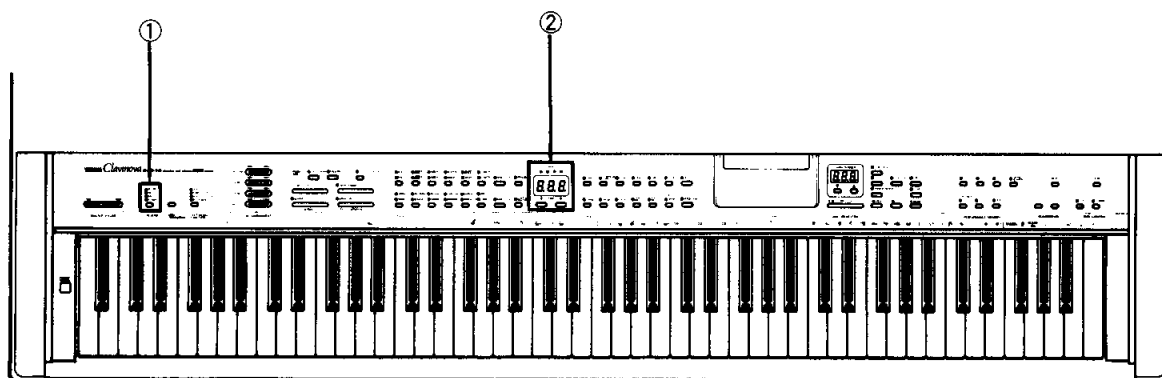
- ・ ピッチベンドという演奏法は、実際にはベースやギターなどの弦楽器、サックスやフルート等の管楽器でよく使われます。逆にピアノ、オルガンなどの鍵盤楽器にピッチベンドをかけると、不自然な演奏になりますのでご注意ください。

#### 【補足】

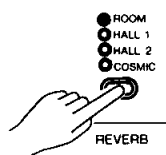
- ・ 電源投入時はレフトペダルはソフト、ソステヌートペダルはソステヌート機能に戻ります。
- ・ ディスクオーケストラ再生時、スタート/ストップは、ポーズ/ネクストフレーズペダル機能として働きます。詳しくは、40ページをご覧ください。
- ・ ブライ効果は、すでに押鍵されている音にもかかります。
- ・ ブライ効果は、7ストリングス、13プラス、14ポッププラス、18サックス、25ストリングスソフト、32シンセストリングス、55チェンバーストリングス、58コズミック1、59コズミック2、60コズミック3の音色にのみかけることができます。

## ●リバーブの深さを変える

リバーブのかかる深さを自由に設定できます。

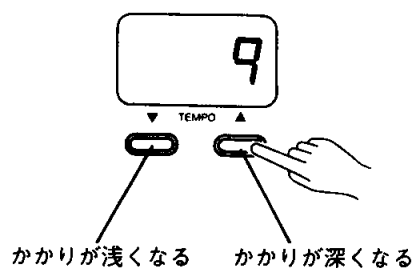


①リバーブボタンを押しながら、



②テンポボタンで深さを指定します。

0～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。



### 【補足】

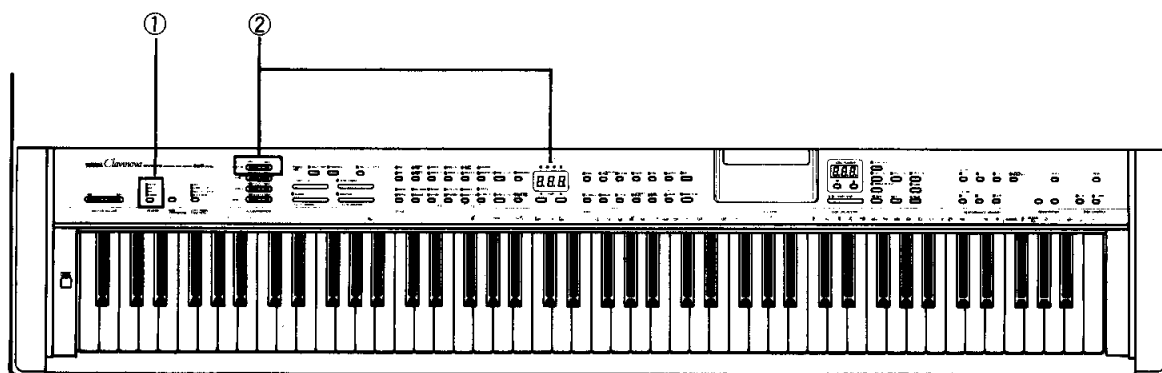
- ・ベース音、リズム音にかかる効果の深さは浅めになっています。
- ・リバーブボタンを押しながら、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、標準の深さ(8)に戻ります。

### 【注意！】

- ・オプション入力およびマイクの音には、リバーブはかかりません。

## ●音像定位を変える(パンポット機能)

手弾き音が左右のどの辺りから聴こえるようにするか(音像定位)を設定できます。

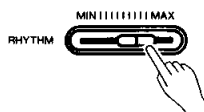


1 MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、

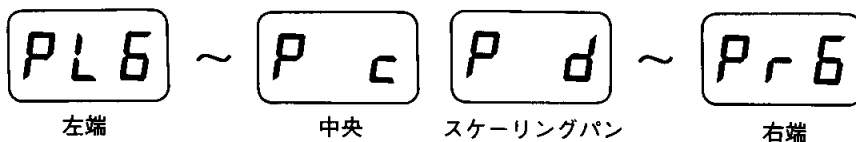


2 リズムボリュームで音像の定位を指定します。

PL6(左端)～Pc(中央)～Pr6(右端)の範囲で指定できます。なお、Pd(スケーリングパン)を指定することもできます。



← 左寄りになる      右寄りになる →



・Pd(スケーリングパン)の状態では、低い音ほど左寄りから、高い音ほど右寄りから聴こえます。

### 【補足】

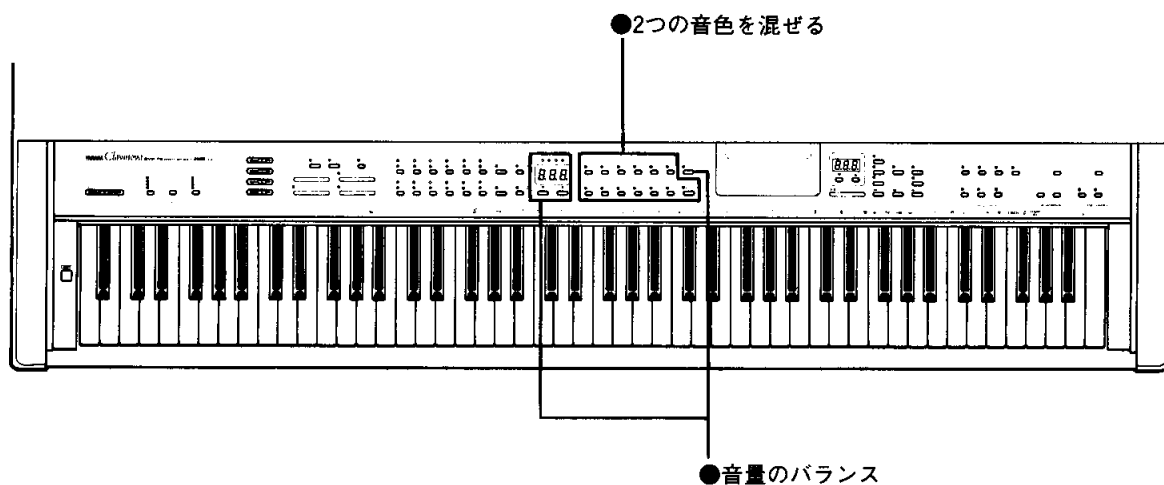
・ドラムスの音色の定位は変わりません。

### 【アドバイス！】

・この機能は、パフォーマンスメモリーに使うと有効です。

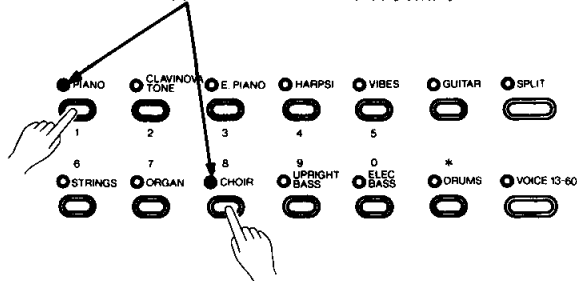


## ● 2つの音色を混ぜる（デュアル機能）



2つの音色を混ぜて鳴らすことができます。組み合わせた2つの音色のボタンを同時に押します。

選んだ音色のランプが両方点灯



(つまり、この場合はピアノとクワイアが選ばれたことになります。)

## ● 音量のバランスについて

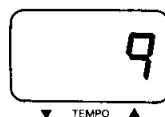
2つの音色の音量バランスを変えることができます。

① スプリットボタンを押しながら、



② テンポボタンでバランスを指定します。

1～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。  
テンポ表示器を見ながら設定します。



TEMPO

▲ ▼

小さい音色番号(ピアノ)  
の音量バランスが大きく  
なります。

大きい音色番号(クワイア)  
の音量バランスが大きく  
なります。

### [補足]

- ・1音色の状態に戻す時は、通常通り1音色の指定をします。(2音色の状態から1音色の状態に戻ります。)
- ・スプリットボタンを押しながら、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、標準の音量バランス(8)になります。

### [アドバイス!]

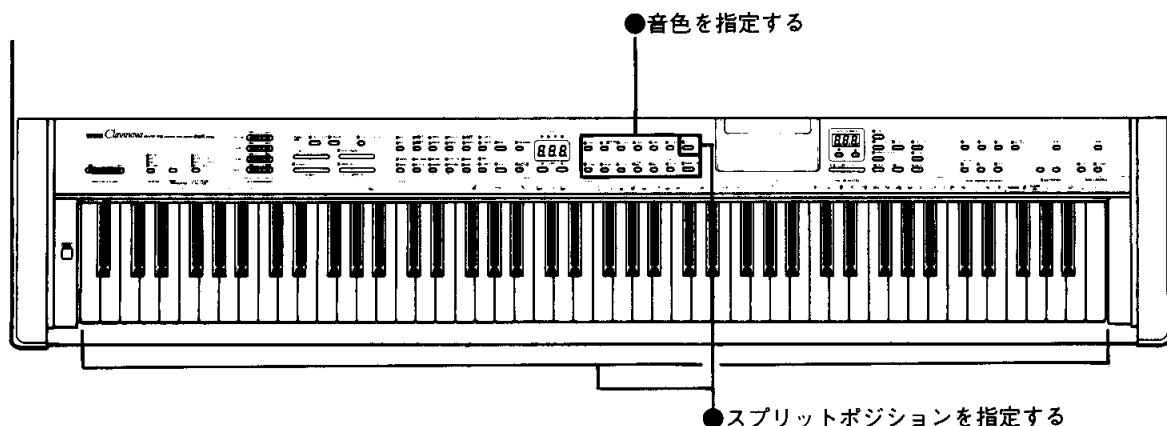
- ・この機能を使うと音に厚みが出ます。サビなどに使うと効果的です。
- ・13-60ボタンに記憶されている音色も、片方の音色として使うことが可能です。

### [注意!]

- ・ドラムスの音色は指定できません。
- ・13～60の範囲の音色どうしを組み合わせることはできません。
- ・スプリット機能使用時は2つの音色を混ぜて鳴らすことはできません。

## ● 2つの音色を選んで弾く（スプリット機能）

低音部を弾く音と高音部を弾く音の音色を、異なったものにして演奏できます。それぞれの音色を指定できます。



### ●スプリットポジションを設定する

#### ①スプリットボタンを押します。

ランプが点灯して、スプリット演奏が可能になります。

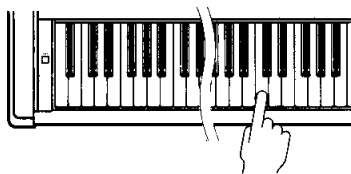


#### ②スプリットポジションを変更できます。

スプリットボタンを押しながら、

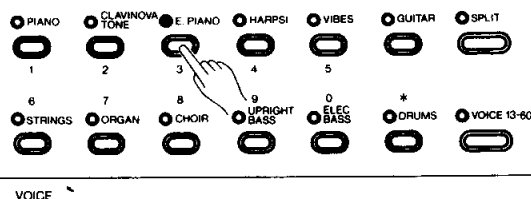


低音部と高音部の境にしたい鍵盤を押して指定します。境にした鍵盤は低音部側に含まれます。



### ●音色を指定する

#### ①高音部の音色を指定します。

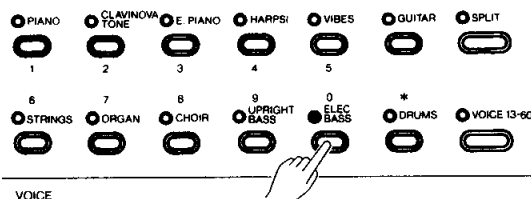


#### ②低音部の音色を指定します。

スプリットボタンを押しながら、



ボイスボタンを押して指定します。

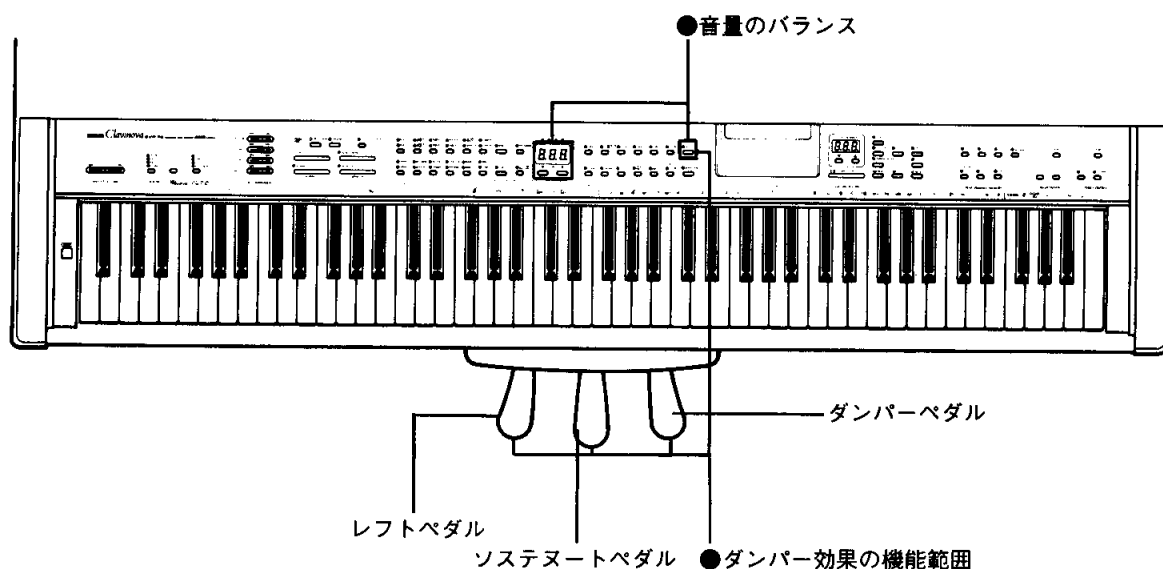


#### [補足]

- ・電源を入れた時は、スプリットポジションはF#2に設定されます。
- ・スプリット状態にした時に点灯したガイドランプの位置が、スプリットポジションです。
- ・電源を入れた時は、高音部の音色はピアノ、低音部の音色はアップライトベースになります。

#### [注意!]

- ・デュアル機能とスプリット機能を同時に使うことはできません。
- ・低音部の音色にベース以外の音色を指定した場合、その音色は1オクターブ高く発音されます。



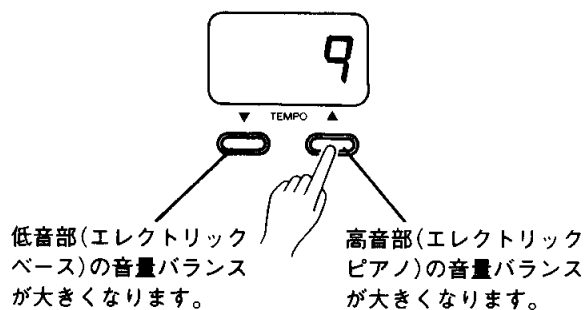
### ●音量のバランスについて

低音部と高音部の音量バランスを変えることができます。

①スプリットボタンを押しながら、

②テンポボタンでバランスを指定します。

1～15の範囲で指定でき、標準は8になっています。  
テンポ表示器を見ながら設定します。



### ●ダンパー効果の機能範囲について

ダンパーペダルの機能範囲を変えることができます。

①スプリットボタンを押しながら、

②ダンパーペダルを踏むと：

高音部にのみ効果がかかります。

レフトペダルを踏むと：

低音側にのみ効果がかかります。

ダンパーペダルとレフトペダルを踏むと：

高音部と低音部の両方に効果がかかります。

#### [補足]

- ・ソフト、ピッチベンド、ソステヌート機能は、高音部と低音部の両方に効果がかかります。
- ・スプリットボタンを押しながら、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、標準の音量バランス(8)になります。

#### [注意!]

- ・電源を入れた時は、高音部にのみダンパー効果をかけることが可能になります。

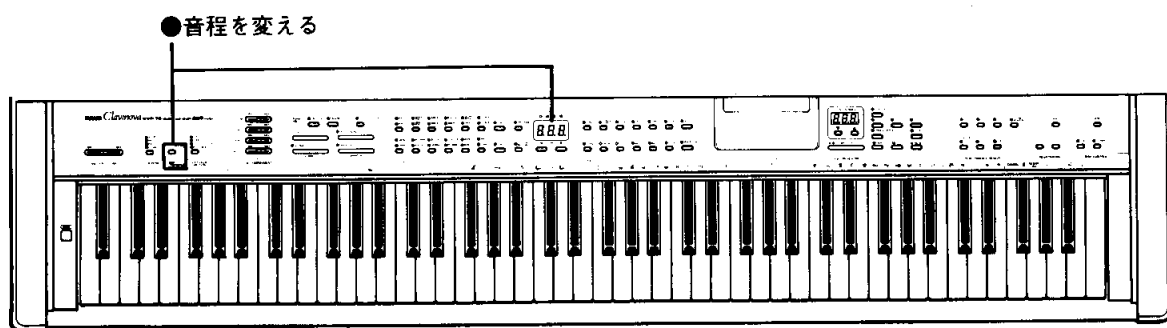
## ●音程を変える（トランスポーズ）

押さえる鍵盤（運指）を変えずに、歌う人の声の高さにキーを合わせることができます。（つまり、弾く高さで発音される音の高さをずらすことができます。）

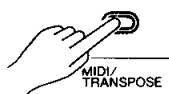
音程を変える時にはここに示すトランスポーズという機能を使って、希望する量だけずらしてください。

★±6半音の範囲でずらすことができます。つまり”ド”の音なら高い方に最大で”ファの#”（半オクターブ）まで、低い方も最大で”ファの#”（半オクターブ）までずらすことができます。

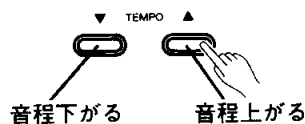
たとえば+5半音ずらすと



1 MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、



2 テンポボタンで移調量を指定します。



### 【アドバイス！】

- ・この機能は合奏などで弾き方を変えずに他の楽器とキーを合わせる時に便利です。

### 【補足】

- ・たとえば”ド”の音を”ファ”の音に変えたい時は、5半音高くすればよいわけですから、値を+5（表示は5）にします。
- ・発音中の音については、移調量を変更しても移調された音では発音されません。次の押鍵の時から、移調された音程で発音されます。
- ・電源を入れた時は、いつも元の高さに戻っています。また、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押せば0に戻ります。

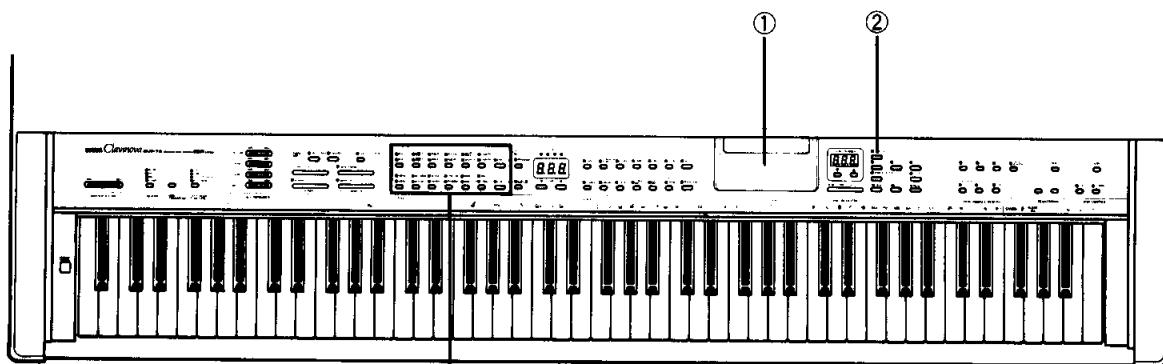
### 【注意！】

- ・トランスポーズの結果により発音域（A-1～C7）以外となった鍵盤を弾いた時は、高音発音域外では1オクターブ低く発音され、低音発音域外では1オクターブ高く発音されます。

## 2. 自動伴奏(ピアノABC)で楽しもう

ピアノABC機能を使って、自動伴奏させてみましょう。曲の流れにそって左手(低音部)でコードを演奏していけば、リズム、コード、ベースによる自動伴奏が鳴ります。

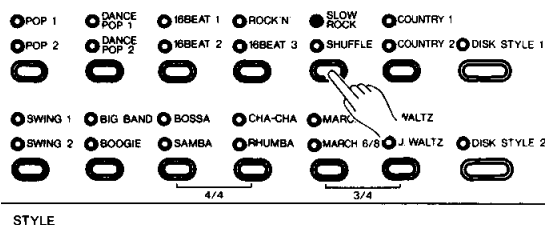
### ●リズムスタイルを選ぶ



●内蔵のリズムスタイルを選ぶ場合

#### ●内蔵のリズムスタイルを選ぶ場合

内蔵リズムスタイルは24種類記憶されており、自動伴奏のスタイルとして選択できます。

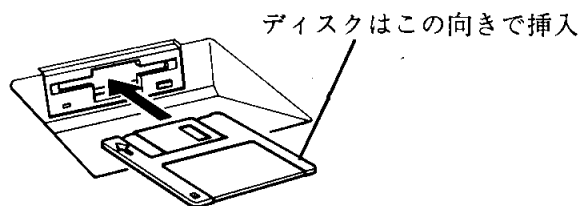


STYLE

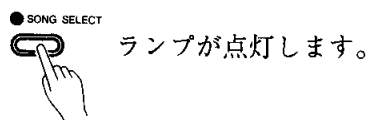
#### ●ディスクスタイル内のリズムスタイルを選ぶ場合

付属のディスクスタイルには、内蔵リズムスタイルと異なる40種類のスタイルが記憶されています。このスタイルの自動伴奏も使用できます。

①付属のディスクスタイルを、ディスク装着口に差し込みます。



②ソングセレクトボタンを押します。



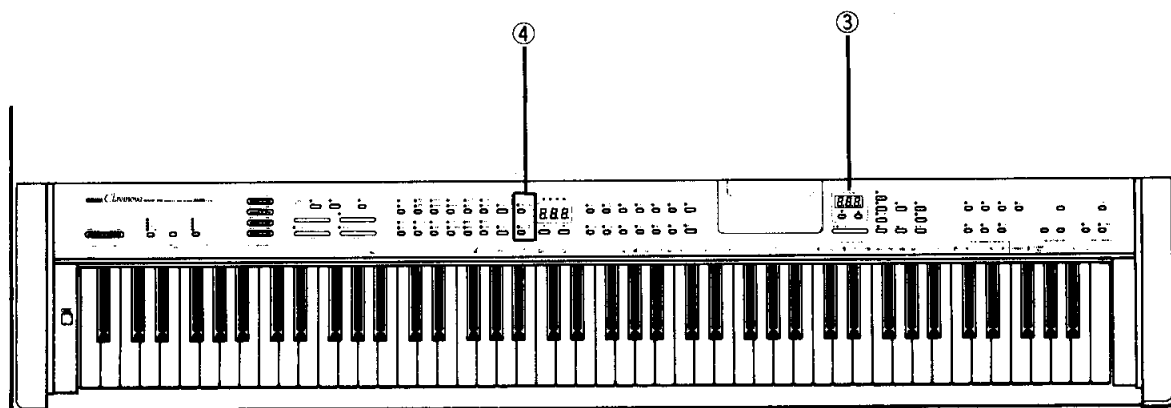
ディスクスタイル1およびディスクスタイル2のランプが点滅し、シングルフィンガーのスタート待機状態になります。(フィンガードの状態になっていた場合は、フィンガードのスタート待機状態になります。)

#### [注意!]

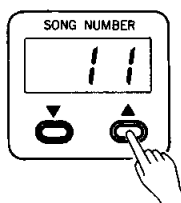
- ・付属のディスクスタイルを使用した後は、決められた方法でディスクを取り出し、大切に保管してください。(48ページ参照)
- ・リズムスタイルを2つ選んで、いっしょに鳴らすことはできません。

#### [補足]

- ・各リズムスタイル共にノーマルとバリエーションの2パターンがありますので、内蔵スタイルと付属のディスクスタイル内のスタイルを合計すると、64スタイル×2パターン=128スタイルあるという見方もできます。
- ・コード音、ベース音の音色は、スタイルを選択した時点で自動設定されます。



③ソングナンバーボタンで、リズムスタイルを指定します。



★ここでリズムスタートさせることにより、指定した番号のパターンを聴いて確かめることができます。(下記の[こんなこともできる! ]の2番目の文章参照)

ただし、ディスクから読み込んでいる最中(ユーザランプ点灯中)にスタートさせることはできません。

④ディスクスタイル1またはディスクスタイル2ボタンのどちらかを押します。

押したボタンのランプが点灯し、押したボタンに、選んだリズムパターンが記憶されます。

記憶されると、ソングセレクトボタンのランプは消灯し、記憶されたディスクスタイルボタンのランプが点灯します。



[こんなこともできる! ]

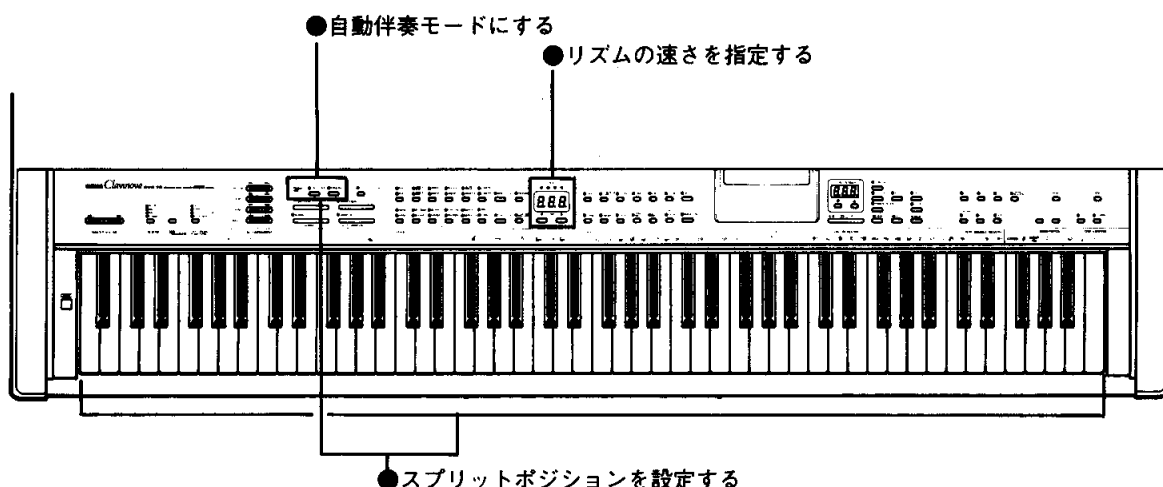
- ・ディスクスタイル内のリズムスタイルの指定方法は、もう1つあります。ドラムボタンを押しながらボイスボタンの1~0を押して指定する方法です。最初に10の位の値を表示させ、次に1の位を表示させます。
- ・②の操作の後、シングルフィンガーのボタンを押してランプを消灯させると、リズムだけ鳴らすことが可能になります。
- ・③の操作の後、低音側の鍵盤を押すか、またはスタート/ストップボタンを押すと自動伴奏がスタートします。これは選んだリズムスタイルのパターンを、すぐに確かめることができるように設けられた機能です。
- ・④の操作まで行くと、ディスクスタイル1、2ボタンは他のスタイルボタンと同じ働きをするようになります。(ディスクスタイル1、2ボタンを押す

と、記憶させたスタイルが呼び出されます。)

- ・電源を切ってから約1週間以上経過しなければ、記憶させたスタイルは記憶されています。記憶させておいたスタイルが消えてしまった場合は、再び記憶させてください。
- ・ディスクスタイル内のスタイルを1スタイルずつ別のディスクにコピーし、好みの順序に並べかえることができます。(コピーの手順は、59ページ”別のディスクへのコピー”と同じです。)

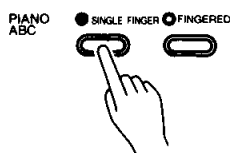
[注意! ]

- ・ディスクスタイルのデータは、パフォーマンスメモリーやディスクオーケストラコレクションの曲のコピーデータが入っているディスクには、コピーできません。



### ●自動伴奏(ピアノABC)モードにする

好みに合わせて、シングルフィンガーか、フィンガードの状態にしてください。(ビートランプの1拍目(赤)がテンポに合わせて点滅し始めます。)



★付属のディスクスタイルのリズムスタイルを選んだ場合も選択できます。

#### シングルフィンガー機能を使う場合

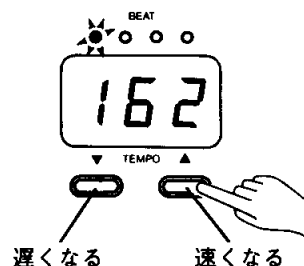
コードを押さなくても、簡単に自動伴奏させることができます。たとえばメジャーコードなら指1本で、その他のコードでも2,3鍵押さえるだけでOKです。

#### フィンガード機能を使うと

普通のコードの押さえ方で自動伴奏させることができます。

ピアノABC状態にするとスタート待機状態になります。(低音部の鍵盤を押すと自動伴奏がスタートします。)

### ●リズムの速さを指定する



テンポ表示器で1分間の拍数を見ながら、♩=32～280の範囲で指定できます。

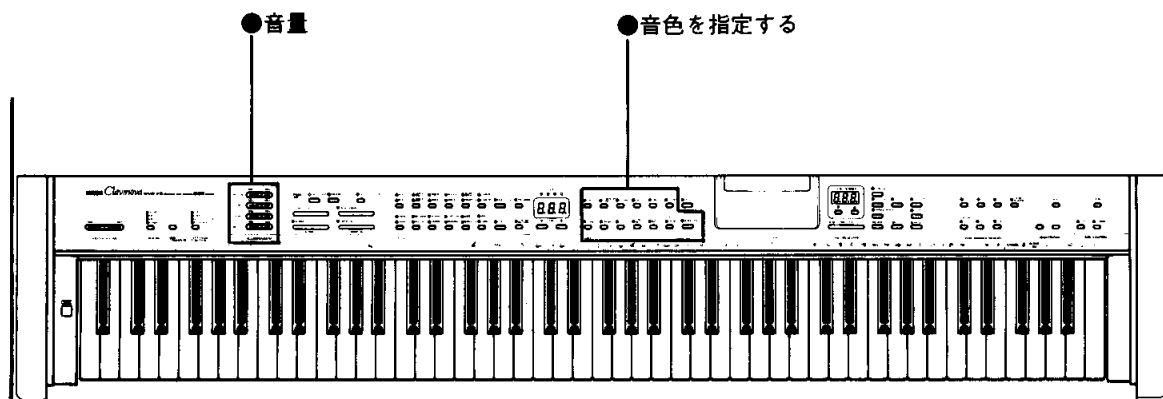
#### [補足]

- ・シングルフィンガーの場合は、4種類のコードに限定されますが、フィンガードの場合は、20種類のコード指定に対応します。
- ・電源を入れた時は、スプリットポジションはF<sup>1</sup><sub>2</sub>に設定されます。
- ・ピアノABC状態にした時に点灯したガイドランプの位置が、スプリットポジションです。
- ・スプリットポイントのガイドランプが点灯します。スプリットポイントは、低音部側に含まれます。
- ・リズムが止まっている時に、リズムスタイルを切り替えると、自動的にそのスタイルの標準テンポに変わります。

- ・テンポボタンは、区切って押すと値が1ステップずつ変わります。また、強く押し続けると素早く連続して変わり、弱く押し続けるとゆっくり連続して変わります。
- ・電源を入れた時は、いつもポップス1の標準テンポ♩=86に戻っています。また、テンポボタンの▼ボタンと▲ボタンを同時に押すと、選ばれているスタイルの標準テンポに戻ります。

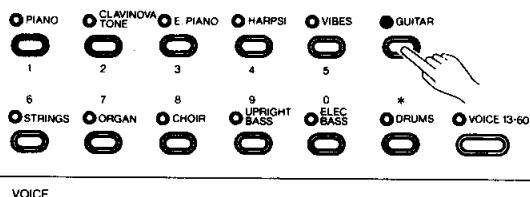
#### [こんなこともできる!]

- ・シングルフィンガーボタン、またはフィンガードボタンを押しながら、低音部(左手和音)と高音部(右手メロディー)の境にしたい鍵盤を押すことにより、スプリットポジションを変更できます。



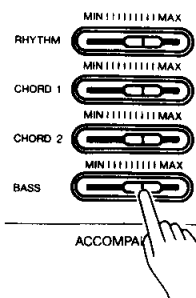
## ●音色を指定する

高音部(右手の演奏音)の音色を指定します。



## ●音量 (ボリューム) について

リズムの音量をリズムボリューム、コードの音量をコード1および2ボリューム、ベースの音量をベースボリュームで、それぞれ調節します。



← 小さくなる 大きくなる →

### [注意!]

- ・各パートのボリュームが最小(MIN)の位置にあると、そのパートの音は出ません。
- ・マスターボリュームが最小(MIN)の位置にあると、全ての音が出ません。

### [こんなこともできる!]

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら、ベースボリュームを操作することにより、高音部の音量を調節できます。(調節後、ベースボリュームは通常機能に戻ります。)

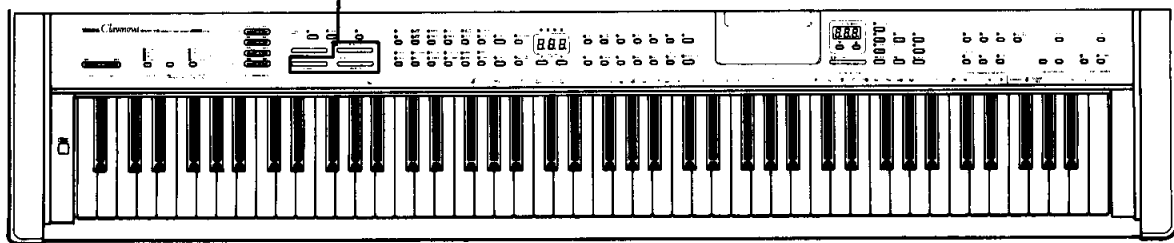
なお高音部の音量調節後は、ベースの音量とベースボリュームの位置とは異なりますのでご注意ください。

### [アドバイス!]

- ・4つのパートのボリュームを上図のような位置にセットすれば、全ての伴奏パートが標準的なバランスで鳴ります。
- ・4つのパートを全て鳴らすと厚みのある伴奏になりますが、曲によってはなじまないパートがあったり、右手メロディーと伴奏音がぶつかってしまうことがあります。このような場合は、コード2のボリュームを最小にしてください。これにより、伴奏パターンが用途が広がります。



## ●スタートのパターン選択

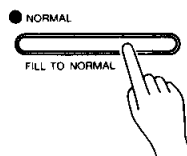


### ●スタートのパターン選択

スタートの際のパターン(最初のパターン)を選択しておくことができます。

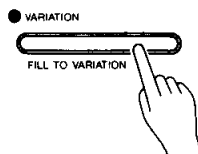
#### ノーマルパターンを選ぶ場合

ノーマルボタンを押します。



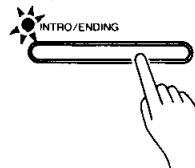
#### バリエーションパターンを選ぶ場合

バリエーションボタンを押します。



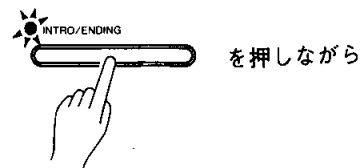
#### イントロパターンを選ぶ場合

イントロ/エンディングボタンを押します。  
(イントロ/エンディングボタンのランプが点滅します。スタートさせた後は、イントロの間イントロ/エンディングボタンのランプが点灯に変わり、イントロ後消灯します。)

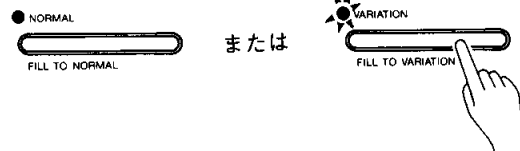


### フィルインパターンを選ぶ場合

- ①イントロ/エンディングボタンを押しながら、  
(イントロ/エンディングボタンのランプが点滅します。)



- ②フィル トゥ ノーマルボタンまたはフィル トゥ バリエーションボタンを押します。  
(フィルボタンの点滅に変わります。スタートさせた後は、フィルインの間フィルボタンのランプが点滅し、フィルイン後点灯に変わります。)



#### [アドバイス!]

- ・コードを変える時、指を鍵盤から離さないで動かすと、コードが思いどおりに変わらないことがあります。鍵盤から指を一旦離れた上で、次の鍵盤を押すようにしてください。
- ・付属の“シングルフィンガーコード一覧表”、および“フィンガードコード一覧表”を参照してください。

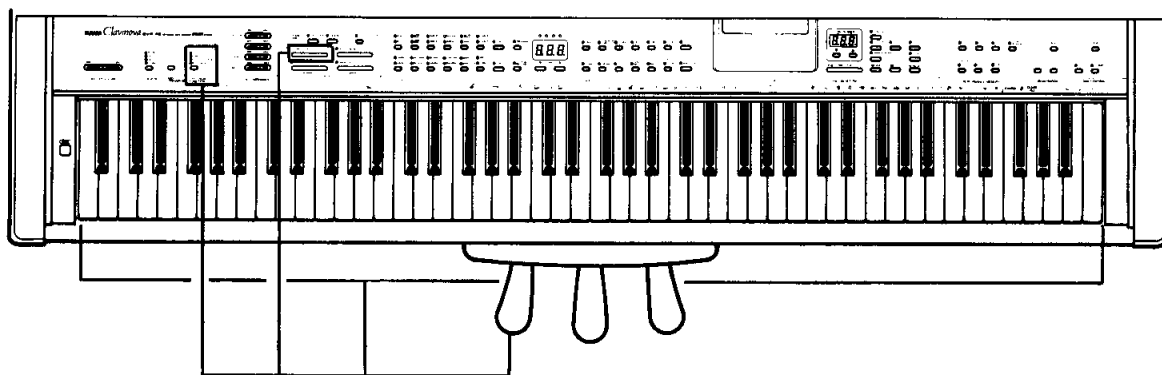
#### [補足]

- ・イントロパターンの長さはリズムスタイルにより異なり、1~4小節です。
- ・フィルインスタートのパターンは1小節です。
- ・イントロパターンからスタートさせた場合は、リズムをストップさせると

イントロ状態が保持され、ランプが点滅します。解除する時はもう一度イントロ/エンディングボタンを押してください。

#### [こんなこともできる!]

- ・演奏中、別のリズムスタイルに切り替えることもできます。切り替えるリズムスタイルのボタンを押してください。
- ・右手の押鍵により音量が自動的に低くなるコードパターンがあります(リズムがロックンロールの時のノーマルパターンのコード2など)。この場合、MIDI/トランスポーズボタンを押しながらボサノバボタンを押すことにより、低くならないモードにできます。



●演奏をスタートさせる

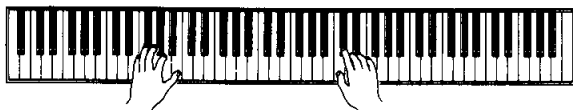
### ●演奏をスタートさせる

いずれかの方法でスタートさせます。

#### リズムと伴奏を同時にスタートさせる場合

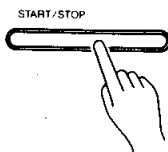
低音部の鍵盤を押した時点で、自動伴奏がスタートします。

伴奏がスタートすれば、低音部の鍵盤から指を離してもそのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばよいということです。



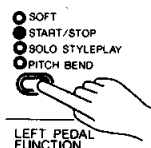
#### リズムを先にスタートさせる場合

スタート/ストップボタンを押します。



#### ペダルによりリズムを先にスタートさせる場合

- ①レフトペダルファンクションの設定をスタート/ストップにします。
- ②レフトペダルを踏むと、リズムがスタートします。  
(もう一度踏むと停止します。)

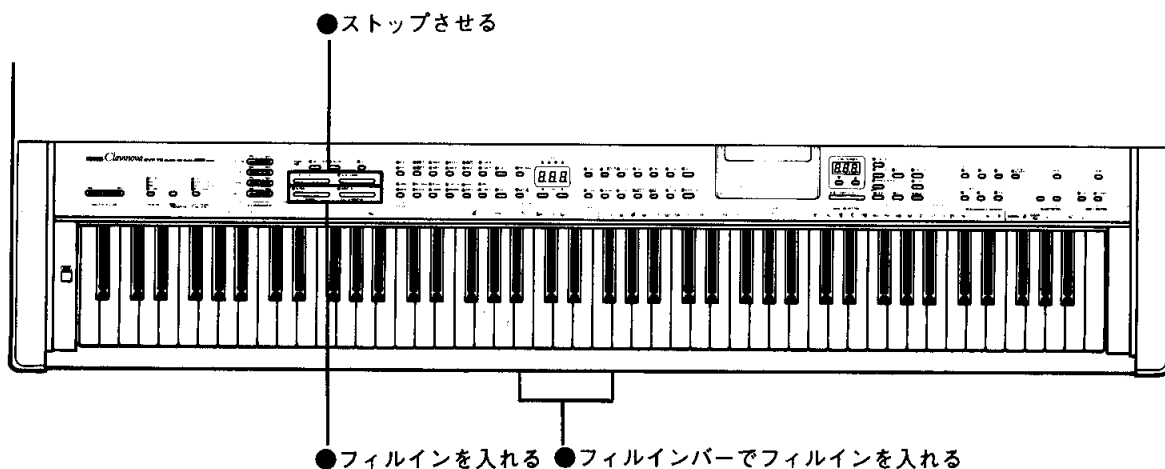


リズムをスタートさせた後は、ビートランプの点灯が左から順に、1拍ごとに移動します。



#### [こんなこともできる!]

- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながらチャチャボタンを押すことにより、フィンガード時の7thパターンを、短調の曲になじみやすいパターンに変更できます。(簡易調性モード)

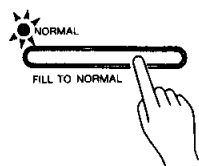


## ●フィルインを入れる

### ノーマルパターンのフィルインを入れる場合

フィル トゥ ノーマルボタンまたは左側のフィルインバーを押します。

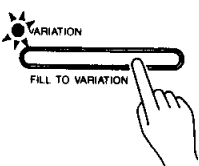
フィルインパターンの後(フィルインの間点滅)、ノーマルパターンになります(フィルイン後点灯)。



### バリエーションパターンのフィルインを入れる場合

フィル トゥ バリエーションボタンまたは右側のフィルインバーを押します。

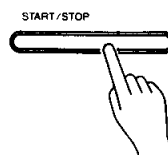
フィルインパターンの後(フィルインの間点滅)、バリエーションパターンになります(フィルイン後点灯)。



## ●演奏をストップさせる

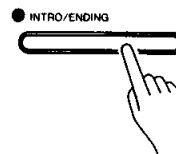
### すぐにストップさせる場合

スタート/ストップボタンを押します。



### エンディングパターンでストップさせる場合

イントロ/エンディングボタンを押します。  
(エンディングの間ランプが点灯します。)



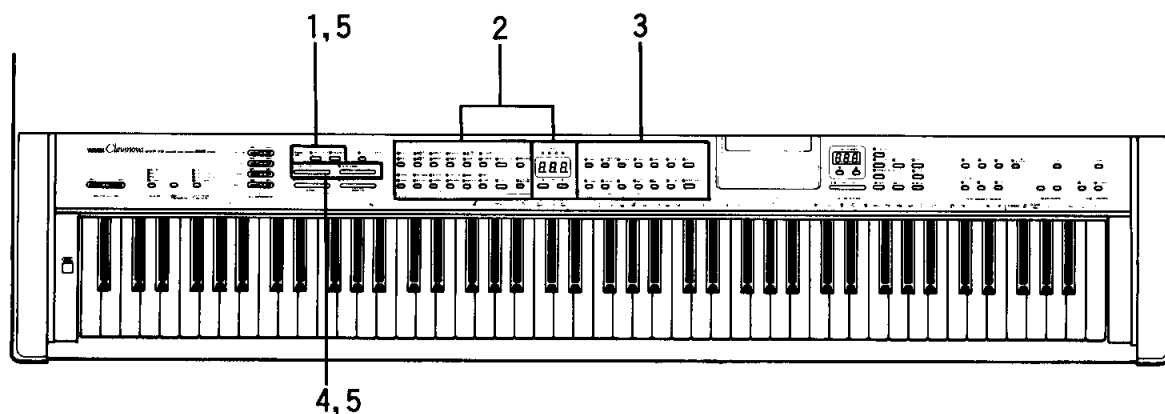
- ・ABC状態でストップさせた場合はシンクロスタート待機状態になります。
- ・完全に終了させる場合は、シングルフィンガーボタンまたはフィンガードボタンを押して、ピアノABCの状態を解除してください。

## [補足]

- ・フィルインは、最長で1小節です(押すタイミングで長さが異なります)。  
また、押し続けるとフィルインのパターンが繰り返されます。
- ・フィルイン中にもう一度同じフィルインボタンを押すと、フィルインパターンが解除されて、ノーマルまたはバリエーションのパターンに戻ります。
- ・エンディングパターンは2〜8小節です。小節の前半でボタンを押した時はその小節からエンディングが入り、後半で押した時は次の小節から入ります。
- ・フィルインバーは、リズムをスタートさせた後のみ機能します。

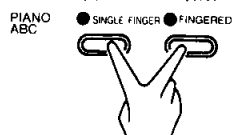
# ●フルキーボードABCで演奏

フルキーボードABCの機能を使った時は、全ての鍵盤の範囲が自動伴奏用の鍵盤になります。つまり通常のピアノ演奏をしながら、コードを変える時に押さえやすい所でコードを押さえることができます。



## 1 フルキーボードABCモードにする

シングルフィンガーボタンとフィンガードボタンを同時に押します。(ビートランプの1拍目(赤)がテンポに合わせて点滅し始めます)



両方のランプが点灯します。

フルキーボードABCの状態にするとスタート待機状態になります。(フィンガードコードの押え方で押さえると自動伴奏がスタートし、コードでない押え方をするとリズムだけがスタートします。)

## 2 リズムスタイル、リズムの速さを指定する

### 3 音色を指定する

- ・スプリット機能を使う場合：  
手弾き音(低音部の押鍵音、高音部の押鍵音)の各音色を指定できます。
- ・デュアル機能を使う場合：  
手弾き音の2音色を指定できます。
- ・いずれの機能も使わない場合：  
手弾き音の音色を指定できます。

## 4 演奏の開始

押鍵すると、リズムがスタートします。フィンガードの押え方で押鍵すると、自動伴奏が鳴ります。スタート/ストップボタンを押して、リズムのみ先にスタートさせることも可能です。

★コードはフィンガードコードの押さえ方をしてください。

## 5 演奏の終了

- ①スタート/ストップボタンまたはイントロ/エンディングボタンを押して、演奏を終了します。
- ②フルキーボードABCの状態を解除する場合は、シングルフィンガーボタンまたはフィンガードボタンを2回押してください。

### 【補足】

- ・フルキーボードABC機能は、ヤマハのポータブルキーボードで使われている技術を応用した機能です。

### 【注意！】

- ・コードの検出は、コードの構成音を3音以上同時に弾いた時のみ行われます。それ以外の押鍵では、前のコード伴奏を継続します。
- ・5音以上同時に弾いた場合は、それらの内の低い方からの4鍵でコードが検出されますが、その4鍵の中にコードの構成音が3音以上ない場合は、前のコード伴奏を継続します。

## ●転回テクニックで楽々演奏

付属の“フィンガードコード一覧表”で見ても解るように、コード名の頭の大文字がほとんど最低音になって載っています。このように大文字、つまり専門用語で“ルート”とか“根音”と呼ばれる音を最も低い音にしたカタチをコードの“基本形”といいます。これに対し、音の積み重ねの順番を少し変えたものを“転回形”といいます。たとえば、Cメジャーコードを例にとると基本形は“ドミソ”ですが、〈例1〉のように、それを転回して“ミソド”と弾いても、“ソドミ”と弾いても、Cメジャーコードには変わりありません。

### 〈例1〉



このような転回のワザを身につけると、響きを楽しめるのと同時に、ピアノABC機能を使う時、演奏が楽になります。たとえば〈例2〉を見てください。①の方はCコードもAmコードも基本形ですが、CからAmに移る際“ドミソ”から“ラドミ”と変えなければいけないため、全ての指の位置を変えて押鍵しなければなりません。

次に②の方を見てください。こちらはAmコードに転回のワザを加えたものです。ソを押さえている指1本をとなりに動かして押鍵し直すだけで、簡単にコードを変えることができます。

### 〈例2〉



全ての指を変えて押鍵し直す

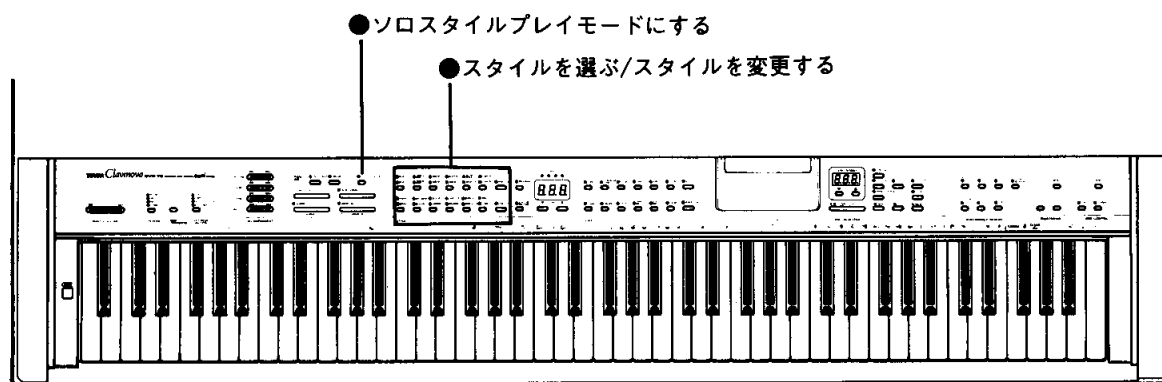


1本だけ変えて押鍵し直せばよい



# 3. ソロスタイルで楽しもう

全リズムスタイルの中から好みのスタイルを選び、瞬時にセットアップして演奏できる機能です。選択により音色や装飾音が自動的にセットアップされると共に、ピアノABCの状態になります。演奏すると、右手の演奏音に装飾音が加わります。さあ、ソロスタイルで楽しみましょう。



## ●ソロスタイルプレイモードにする

ソロスタイルプレイボタンを押します。

●SOLO STYLEPLAY

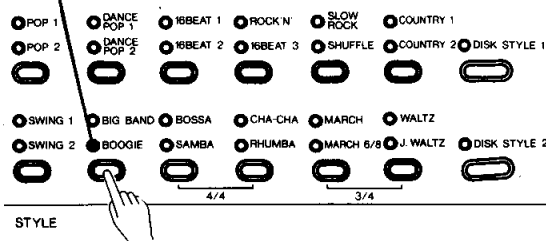


★ピアノABCモードになっていない時は、自動的にシングルフィンガーコードのスタート待機状態になります。

## ●スタイルを選ぶ

スタイルを選んでボタンを押します。

選んだスタイルのランプが点灯する。



## ●スタイルを変更する

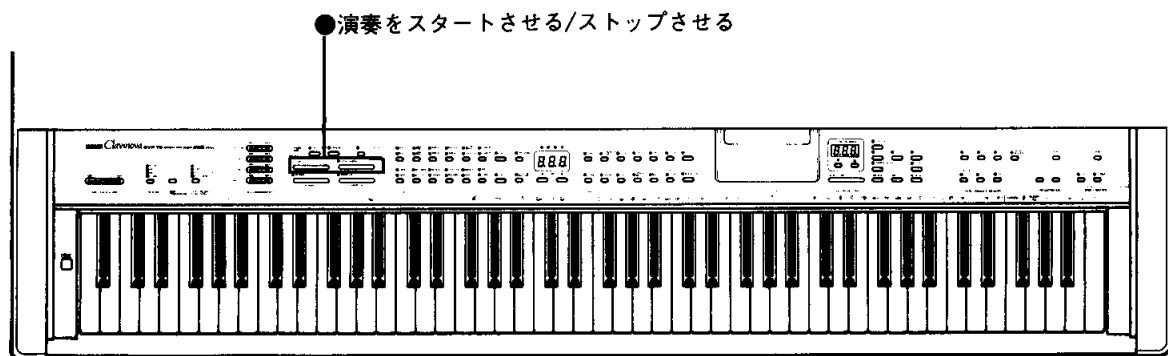
スタイル変更は演奏中でも可能です。切り替えるスタイルを選んでスタイルボタンを押してください。

### 【こんなこともできる！】

- ・右手の演奏音の音色を変更したり、スプリットポイントを変更することが可能です。
  - ・レフトペダル機能の設定をソロスタイルプレイにすると、レフトペダルを踏んでいる間のみ、高音部の演奏音に装飾音が付きます。
  - ・リズム、コード1、コード2、ベース、全体の音量を、それぞれのボリュームで調節できます。
  - ・装飾音のタイプは、指定したスタイルによって自動的に決まりますが、装飾音のタイプは各スタイルに3タイプずつあり、自由に選んで使うこともできます。
- ソロスタイルプレイボタンを押しながら、テンポボタンを押すごとに他のタイプに切り替わります。

### 【注意！】

- ・音色はスタイルを変更することによって自動的に変わります。このため、別の音色で演奏したい時は、スタイル変更後に音色を選んでください。
- ・ソロスタイル機能とフルキーボードABC機能を同時に使うことはできません。
- ・ソステヌートをかけることはできません。



### ●演奏をスタートさせる

#### シンクロスタートのままスタートさせる場合

低音部の鍵盤を押した時点で、自動伴奏がスタートします。

伴奏がスタートすれば、低音部の鍵盤から指を離しても、そのコードの伴奏が続きます。つまり低音側の鍵盤は、コードを変える時だけ押せばよいということです。

#### リズムを先にスタートさせる場合

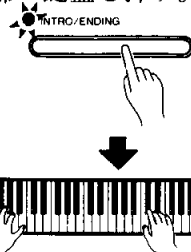
スタート/ストップボタンを押す。

#### イントロスタートさせる場合

①イントロ/エンディングボタンを押し、

②スタート/ストップボタンを押す。

または低音部の鍵盤を押す。



### ●演奏をストップさせる

#### すぐにストップさせる場合

スタート/ストップボタンを押す。

#### エンディングパターンでストップさせる場合

イントロ/エンディングボタンを押す。

- ・この状態でストップさせた場合はシンクロスタートの待機状態になります。
- ・完全に終了させる場合はソロスタイルプレイ、シングルフィンガーまたはフィンガードのボタンを押して、ソロスタイルプレイおよびピアノABCの状態を解除してください。

#### [アドバイス!]

- ・左手演奏において鍵盤から指を離さないで動かすと、コードが正確に鳴らないことがあります。
- 鍵盤から指を一旦離した上で、次のコードを指定してください

#### [注意!]

- ・ピアノABCパターンで、コード進行を用いたパターン(イントロ、エンディング)は、ソロスタイルプレイを機能させると、オクターブユニゾンによる装飾音になります。

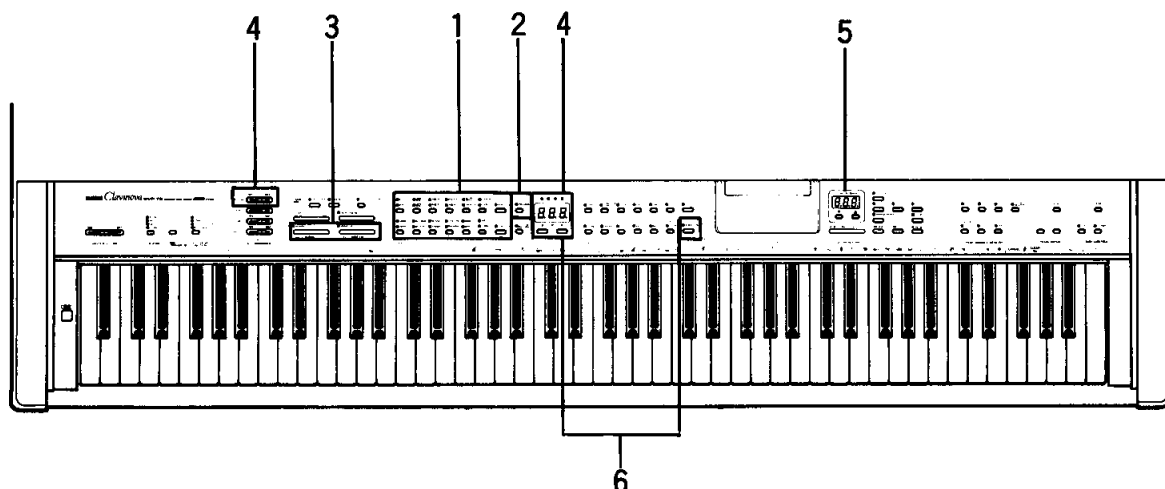
## 4. リズムパターンを作ろう (カスタムリズム)

元にするリズムスタイルを選び、新しいリズムパターンやフィルインパターンを作ることができます。

作成したオリジナルのリズムパターンは、スタイルボタンに12ヶまで記憶させることができ、カスタムリズムとして自由に呼び出して使用できるようになります。

また、スタイルボタンに記憶させた12ヶのカスタムリズムのデータは、フロッピーディスクに保存しておくこともできます。

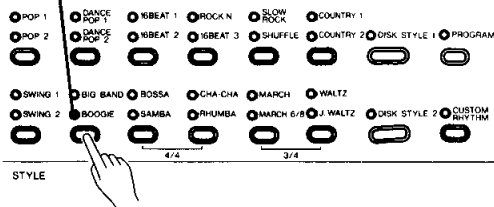
### ●カスタムリズムを作成する (1)



#### 1 作りたいリズムにもっとも近いリズムスタイルを選びます。

スタイルを選んでボタンを押します。拍子やABCのパターンは変更できませんので、よく考えてリズムスタイルを選んでください。

選んだスタイルのランプが点灯する。



#### 2 プログラムボタンを押します



プログラムボタンのランプが点灯し、選んだリズムがスタートすると共に、音色が自動的にドラムスになります。

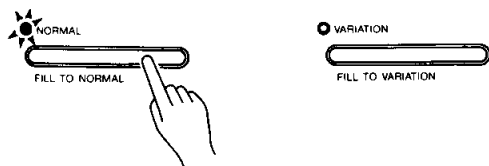
すでにカスタムリズムが保存されている場合は、保存されているスタイルボタンの上段にあるランプが点灯します。

#### [注意!]

- ・リズムスタイルの選択時に、内蔵リズムスタイルだけでなく、ディスクスタイル1または2に記憶させたリズムスタイルを選ぶこともできます。また、自分で作ったカスタムリズムを選ぶこともできます。
- ・イントロパターンおよびエンディングパターンを作ることはできません。

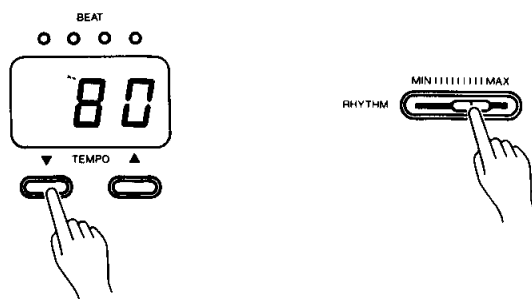


### 3 フィルインパターンを作る場合は、フィルインボタンを押します



・もう一度押すと、元の2小節パターンに戻ります。

### 4 リズムを入力しやすいように、音量やテンポを調節します



### 5 分解能を選択します

音の鳴るタイミングを演奏した通りに記憶させるか、自動的に16分音符または12分音符(3連音符)に補正させるかを選びます。

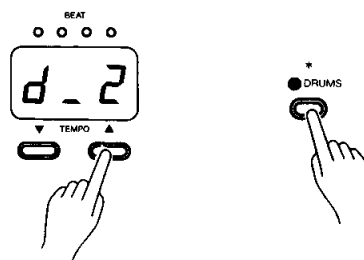
ソングセレクトの▲ボタン：分解能フリー(FrE)  
ソングセレクトの▼ボタン：分解能16または12  
(元のパターンによる)



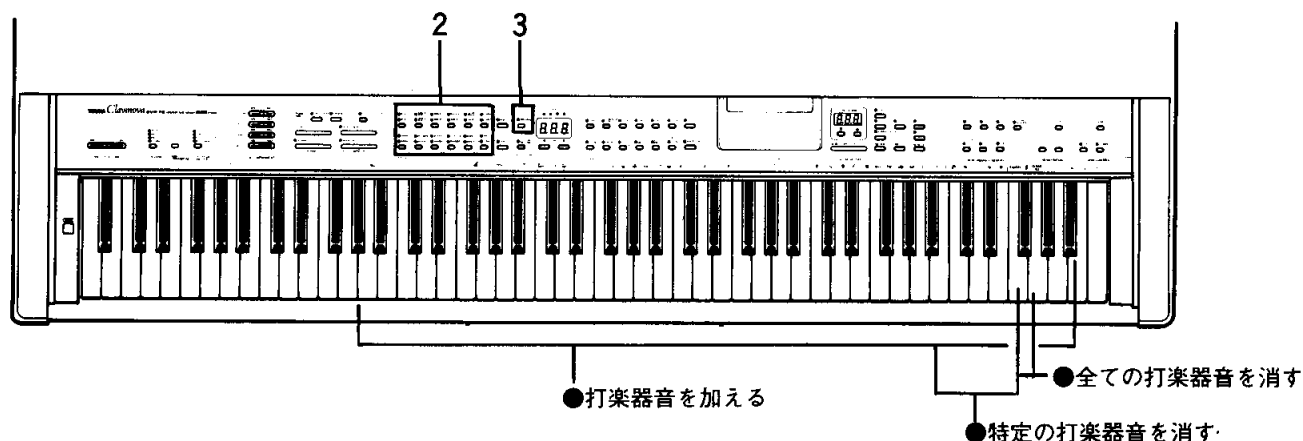
### 6 ドラム音色の切り替え

ドラムの音色を、d1(アコースティック)にするか、d2(エレクトリック)にするかを選ぶことができます。

ドラムスボタンを押しながら、テンポボタンの▲ボタンまたは▼ボタンで切り替えます。



## ●カスタムリズムを作成する（2）



### 1 リズムを作成します。

#### 打楽器音を加える場合は？

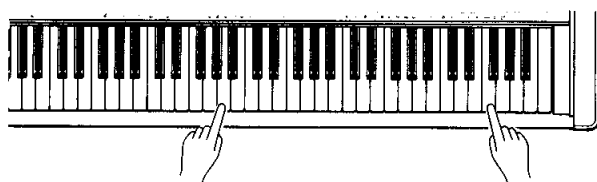
リズムに合わせて、入力したい楽器が割り付けられている鍵盤をタイミングよく押して、打楽器音を加えていきます。（→11ページの「打楽器について」参照）

終了の操作を行うまで、2小節のリズムパターンが繰り返し鳴りますので、1音ずつ加えていくことができます。

鍵盤を押す強さによって、音の強弱がそのまま記憶されます。

#### 特定の打楽器音を消してしまいたい場合は？

キャンセル用鍵盤(F<sub>6</sub>)を押しながら、消してしまいたい打楽器の鍵盤を押します。するとその楽器の音がパターンから消えます。



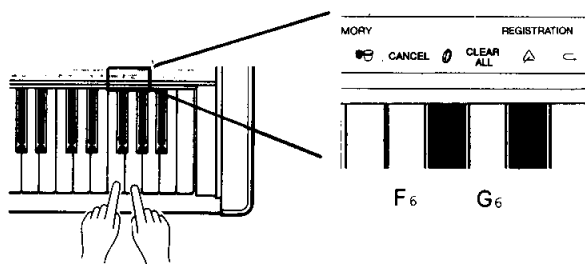
消してしまいたい打楽器の鍵盤

F<sub>6</sub>

### 最初からリズムを作りたい場合は？

現在鳴っている打楽器音全てをパターン上から消してしまいたい場合は、キャンセル用鍵盤(F<sub>6</sub>)を押しながらクリアーオール用鍵盤(G<sub>6</sub>)を押します。すると、それまで鳴っていた打楽器音が全て消え、かわりにメトロノーム音が鳴りだします。このメトロノームに合わせてリズムを入力すると、まったく新しいリズムパターンを作ることができます。

このメトロノーム音は仮の音であり、後で再生する時には鳴りません。



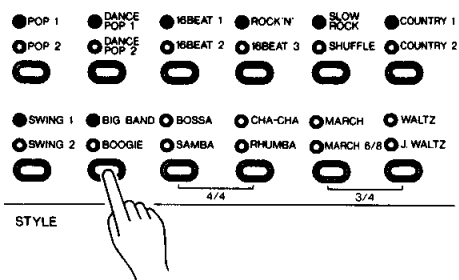
### [注意！]

- ・同じタイミングで鳴らせる打楽器音は最大で8音です。
- ・内蔵されているリズムパターンは、d1(アコースティック)とd2(エレクトリック)を組合せて作成しているため、打楽器等の絵の無い鍵盤にも音が入っています。加えたり、消したりする場合には、d1とd2の両表を見ながら作成してください。(11ページ参照)

## 2 作成したリズムパターンを記憶させます。

12ヶあるスタイルボタンの中のいずれかを押すと、その場所にカスタムリズムとして記憶され、そのボタンのランプが点灯します。

どこにどんなリズムパターンを記憶させたか、メモしておくとい良いでしょう。



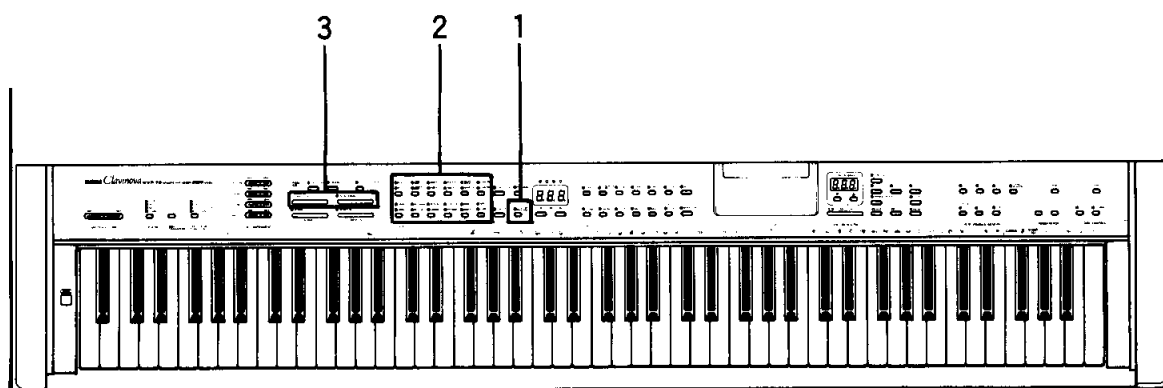
記憶させない時は、次の終了の操作をしてください。

## 3 作成作業を終了します。

プログラムボタンを押すと、作成作業が終了します。



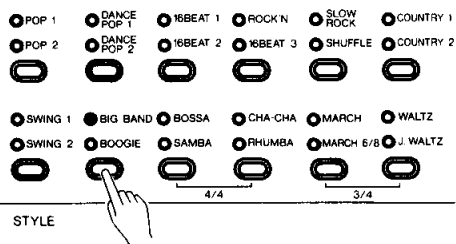
## ●カスタムリズムを再生させる



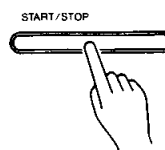
1 カスタムリズムボタンを押します。



2 再生したいカスタムリズムが記憶されているスタイルボタンを押します。

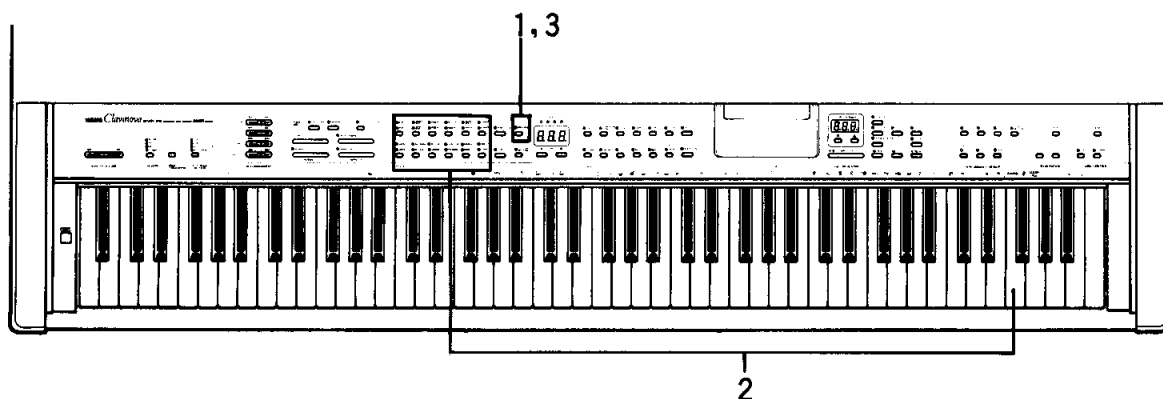


3 リズムをスタートさせます



## ●記憶させたカスタムリズムを消去する

作成して記憶させたカスタムリズムを、消去することができます。



1 プログラムボタンを押します。



3 消去を終了します。

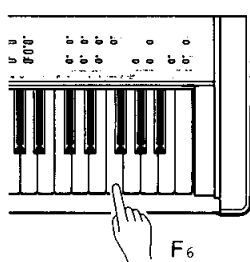
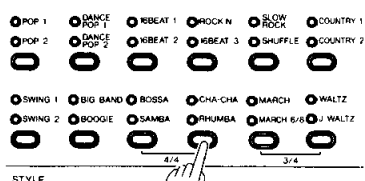
プログラムボタンを押すと、消去作業が終了します。



2 消去します。

キャンセル用鍵盤 (F<sub>6</sub>) を押しながら、消したいリズムパターンが記憶されているスタイルボタンを押します。

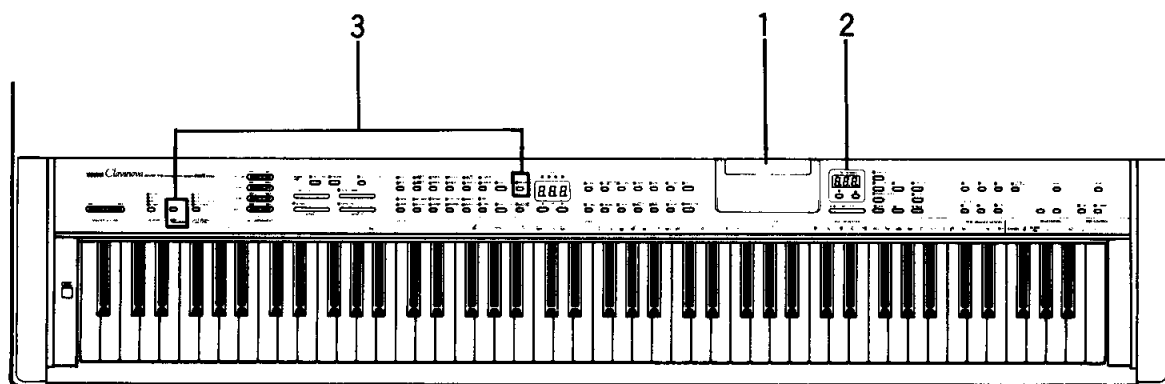
その場所に記憶されているカスタムリズムは消去され、スタイルのランプも消灯します。



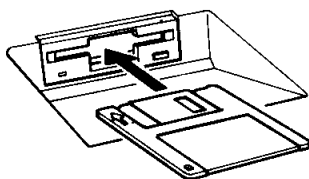
### [注意!]

- ・記憶させたカスタムリズムは、電源を切った状態で約1週間で消えてしまいます。消したくない場合は、次ページの方法でフロッピーディスクに保存してください。

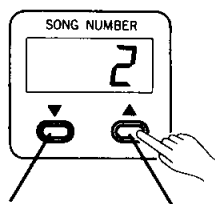
## ●カスタムリズムをフロッピーディスクに保存する



1 フォーマット済みのフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。



2 ソングナンバーボタンで保存先の番号を指定します。



▼ボタンを押すごとに、数字が1つずつ小さくなります。 ▲ボタンを押すごとに、数字が1つずつ大きくなります。

3 カスタムリズムをフロッピーディスクに保存します。

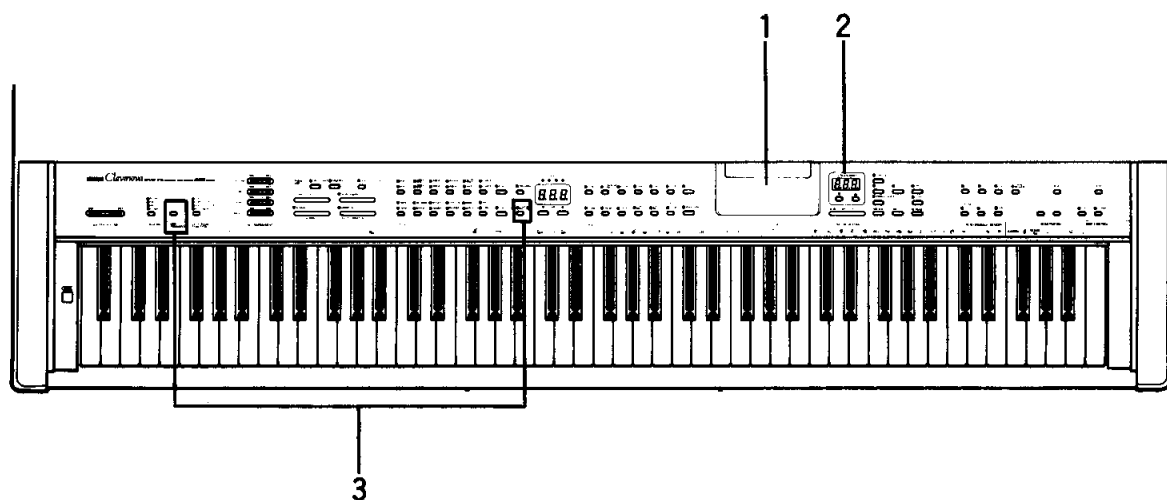
MIDI/トランスポーズボタンを押しながらプログラムボタンを押すと、スタイルボタンに記憶されているカスタムリズムが、指定番号でフロッピーディスクに保存されます。



### [注意!]

- ・同じディスクの同じ番号を指定すると、その番号にそれまで記憶されていたカスタムリズムは消去されます。
- ・ライトプロテクトのかかっているディスクには保存できません。

## ●カスタムリズムをフロッピーディスクから呼び戻す

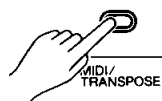


1 カスタムリズムの入ったフロッピーディスクをディスク挿入口に差し込みます。

2 ソングナンバーボタンで、呼び出すカスタムリズムの番号を指定します。

3 カスタムリズムを、フロッピーディスクから呼び出します。

MIDI/トランスポーズボタンを押しながらカスタムリズムボタンを押すと、指定番号のカスタムリズムが、スタイルボタンに呼び出されます。



### 【注意！】

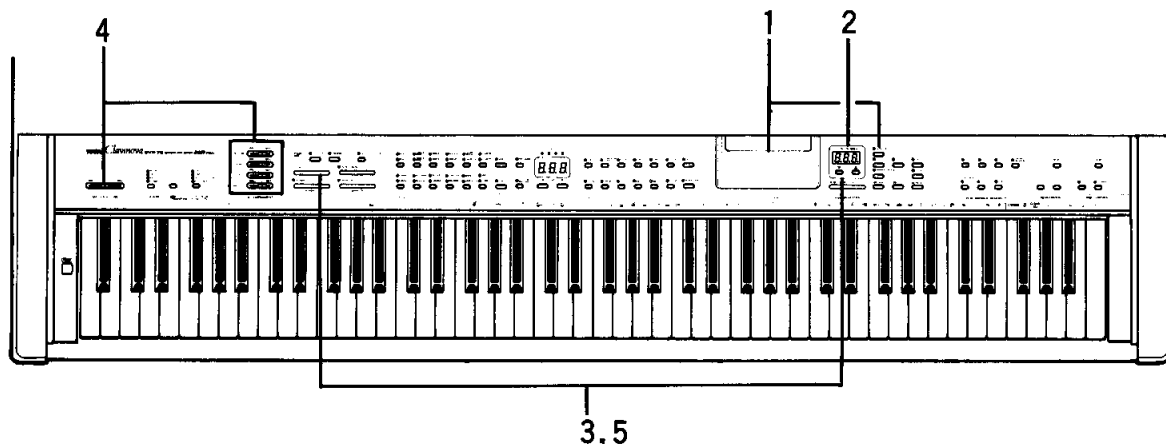
- ・フロッピーディスクに保存したカスタムリズムは、ディスクスタイルの中のリズムスタイルとは使い方が異なります。
- ・カスタムリズムをフロッピーディスクから呼び戻すと、ソングセレクトボタンのランプは消灯します。パフォーマンスメモリーの再生をする時は、再びソングセレクトボタンを押してランプを点灯させてください。

# 5. ディスクオーケストラについて

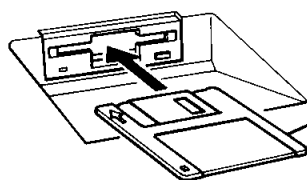
クラビノーバのための音楽ソフト「ディスクオーケストラコレクション」を使えば、オーケストラの伴奏に合わせてピアノ演奏を楽しんだり、ピアノマイナスイオン演奏でオーケストラとの共演を楽しんだり、右手と左手を別々に練習することができます。

## ●自動演奏させる

「ディスクオーケストラコレクション」のディスクを、CVP-75で自動演奏させてみましょう。



1 「ディスクオーケストラコレクション」のフロッピーディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。



ディスクはこの向きで挿入

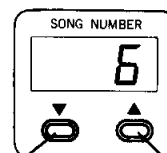
★ディスクを差し込むと、ソングセレクトボタン、レフトオンボタン、ライトオンボタン、オーケストラオンボタンのランプが点灯します。

すでにディスクが差し込まれていてソングセレクトボタンのランプが消えている場合は、ソングセレクトボタンを押して、ランプを点灯させます。



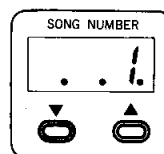
2 自動演奏させたい曲の番号を、ソングナンバーボタンで指定します。

ソングナンバー表示器を見ながら曲番号を指定します。



▼ボタンを押すごとに、曲番号 ▲ボタンを押すごとに、曲番号が1つずつ小さくなります。 1つずつ大きくなります。

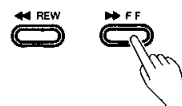
★ALLを表示させると、全曲の繰り返しになります。その場合、再生させるとソングナンバー表示器の下側の点が3つ点灯します。



[こんなこともできる!]

- ・右手パート、左手パート、オーケストラパートの音については、それぞれ自由にオフできます。
- 詳しくは次項の「ディスクオーケストラに合わせて練習」をご覧ください。
- ・MIDI/トランスポーズボタンを押しながら演奏をスタートさせると、現在選ばれているソングから全曲リピート再生させることができます。

- ・◀戻しボタンを押すと、1小節単位で小節位置が戻ります。
- ・停止中または一時停止中に▶送りボタンを押すと、1小節単位で小節位置が進みます。
- また自動演奏中に▶送りボタンを押すと、早送り音を聴きながら連続して小節を進めることができます。

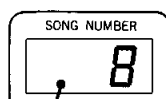




### 3 自動演奏の開始

ディスクオーケストラのスタート/ストップボタンまたはスタート/ストップボタンを押して、自動演奏をスタートさせます。カウント音の後にスタートする曲もあります。

★ソングナンバー表示器の下側左の点が点灯している時は、ディスク準備中ですのでスタートの操作をしても演奏は始まりません。



この点が点灯している時はスタートしない。

### 4 音量の調節

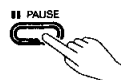
各ボリュームで各パートの音量を調節できます。

- ・全体……………マスターボリューム
- ・リズムパート……………リズムボリューム
- ・オーケストラパート(トラック4~10) ……コード1ボリューム
- ・右手、左手パート(トラック1、2) ……コード2ボリューム
- ・ベースパート(トラック3) ……ベースボリューム

### 5 自動演奏の終了

曲の最後まで自動演奏されて自動的に停止します。途中で停止させる時は、ディスクオーケストラのスタート/ストップボタンまたはスタート/ストップボタンを押します。

- ・自動演奏中に **II PAUSE** ボタンを押すと、自動演奏が一時停止します。もう一度押すと、一時停止した所から再スタートします。



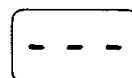
- ・レフトペダルファンクションの設定をスタート/ストップにすると、レフトペダルでポーズ/ネクストフレーズの操作を行えるようになります。この機能は、レフトペダルを踏むたびに「演奏一時停止と次のフレーズ番号のところからの演奏開始」を行う機能です。ただし、全曲リピート中、フレーズリピート中、およびガイド機能使用中はこの機能は使えません。
- ・自動演奏時のテンポを変更できます。

#### 【注意！】

- ・曲によっては、小節数が楽譜と異なって表示されることがあります。
- ・曲の音量バランスによっては、ボリュームが最小(MIN)までいかないと音が消えてしまうパートがあります。

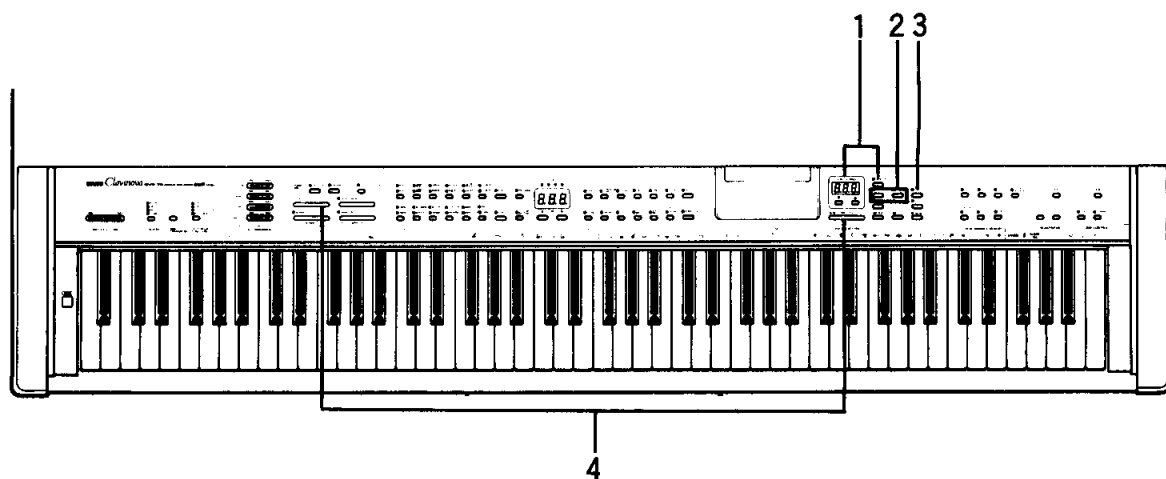
#### 【補足】

- ・収録されている曲によっては、テンポが表示されない場合があります。その場合曲が停止中は、テンポ表示器に次のように表示され、演奏中は曲の進行を示す数字が表示されますが、この数字は小節とは関係ありません。



## ●ディスクオーケストラに合わせて練習(レッスン機能)

ピアノ演奏の右手パート、左手パートを別々に練習できます。

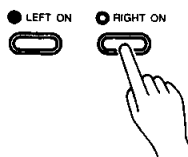


1 ソングセレクトボタンを押した上で(ソングセレクトボタンのランプを点灯させる)、ソングナンバーボタンで練習したい曲の番号を指定します。

2 練習したいパートのオンボタンを押してランプを消灯させます。

次の練習方法があります。

- ・右手パートを練習する時：  
ライトオンボタンを押してランプを消す。
- ・左手パートを練習する時：  
レフトオンボタンを押してランプを消す。
- ・右手・左手両パートを同時に練習する時：  
ライトオンボタン、レフトオンボタンを押して、両方のランプを消す。



3 練習の際、オーケストラパートを鳴らしたくない場合は、オーケストラオンボタンを押してランプを消灯させます。



### 4 練習のスタート

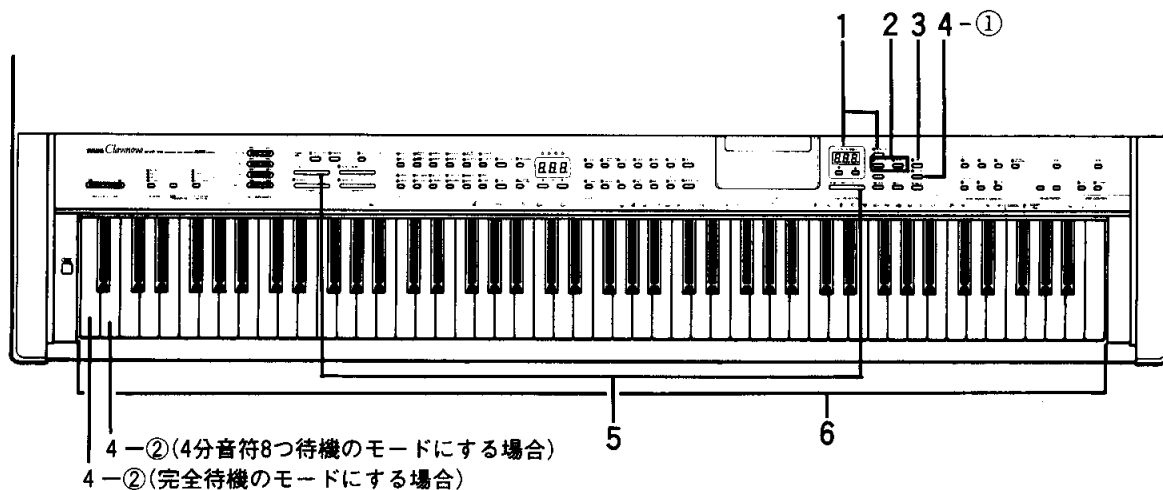
ディスクオーケストラのスタート/ストップボタン、またはスタート/ストップボタンを押すと、マイナスワン演奏が始まります。ランプを消灯させたパートの演奏音は聞こえません。曲に合わせて、オフにしたパートを自分の演奏で練習してみましょう。

[こんなこともできる!]

・各パートのボタンは、自動演奏の途中でもオン/オフできます。

## ●ガイドランプにしたがって弾く(ガイド機能)

主要パートである右手パート、左手パートを、各鍵盤の上にあるガイドランプを見ながら弾くことができます。

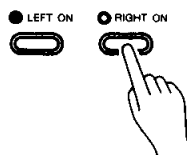


1 ソングセレクトボタンを押した上で(ソングセレクトボタンのランプを点灯させる)、ソングナンバーボタンで練習したい曲の番号を指定します。

2 練習したいパートのオンボタンを押してランプを消灯させます。

次の練習方法があります。

- ・右手パートを練習する時：  
ライトオンボタンを押してランプを消す。
- ・左手パートを練習する時：  
レフトオンボタンを押してランプを消す。
- ・右手・左手両パートを同時に練習する時：  
ライトオンボタン、レフトオンボタンを押して、両ランプ共に消灯させるか点灯させます。

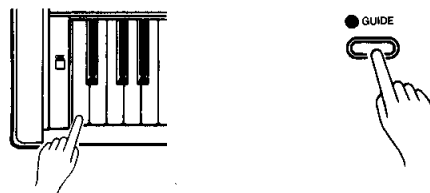


3 練習の際、オーケストラパートを鳴らしたくない場合は、オーケストラオンボタンを押してランプを消灯させます。

4 ガイド機能のモードを選ぶ

完全待機モードにする場合

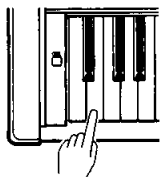
- ①ガイドボタンを押しながら(ガイドボタンのランプが点灯)、
- ②A-1の鍵盤を押します。



★ガイドランプで表示された鍵盤が押鍵されるまで、曲が進行せずに待機するモードです。

#### 4分音符8つ待機のモードにする場合

- ①ガイドボタンを押しながら(ガイドボタンのランプが点灯)、
- ②B-1の鍵盤を押します。



★ガイドランプで表示された鍵盤が、4分音符8つ(4/4で2小節)以上曲が進むまでに押鍵されなかった場合、曲が進行せずに待機するモードです。(4分音符8つ内に、1音でも表示鍵盤を押せば進行します。)

#### 5 練習のスタート

ディスクオーケストラのスタート/ストップボタン、またはスタート/ストップボタンを押すと、マイナスイオン演奏が始まりますが、イントロが終わると曲が止まって、自分で演奏する鍵盤の上のガイドランプが点灯します。(完全待機のモード時)

#### 6 ガイドランプを追いかけてピアノ演奏

点灯したガイドランプ下の鍵盤を押さえると、次のランプが点灯します。

このように、ランプが点灯している鍵盤を押さえていき、操作2で指定したパートを練習します。点灯している鍵盤を押さえるまで次に進まずに待機(または4分音符8つ分以上押鍵がないと待機)していますので、自分のペースで練習することができます。



#### [こんなこともできる!]

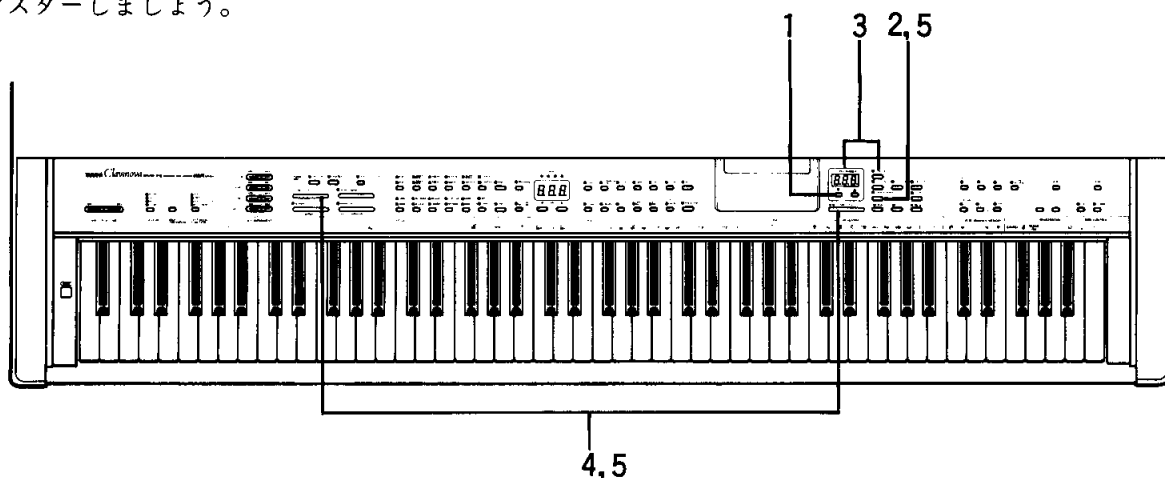
- ・ガイドボタンは、自動演奏の途中でもオン/オフできます。
- ・モードの切り替えは、ストップ中のみ可能です。

#### [補足]

- ・電源投入時、ガイド機能のモードは完全待機モードになっています。

## ●苦手なフレーズを繰り返し練習 (フレーズリピート機能)

1曲の中の、あるフレーズだけを繰り返し自動演奏させることができます。繰り返し練習してマスターしましょう。



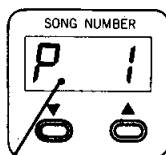
**1** ソングセレクトボタンを押した上で(ソングセレクトボタンのランプを点灯させる)、ソングナンバーボタンで練習したい曲の番号を指定します。

**2** フレーズリピートボタンを押します。

● PHRASE REPEAT



フレーズリピートボタンを押すと、ランプが点灯し、ソングナンバー表示器はフレーズ番号表示になります。



この点が点灯している時はスタートしません。

**3** ソングナンバーボタンで、繰り返し練習したいフレーズの番号を指定します。

※フレーズ番号は楽譜上に表記してあります。

### 4 練習のスタート

ディスクオーケストラのスタート/ストップボタンまたはスタート/ストップボタンを押すと、1小節のカウント音の後に、選んだフレーズより自動演奏が始まり、次のフレーズまでの間が繰り返し演奏されます。繰り返し練習しましょう。

★繰り返しの回からは、カウント音は鳴りません。

### 5 フレーズリピート練習の終了

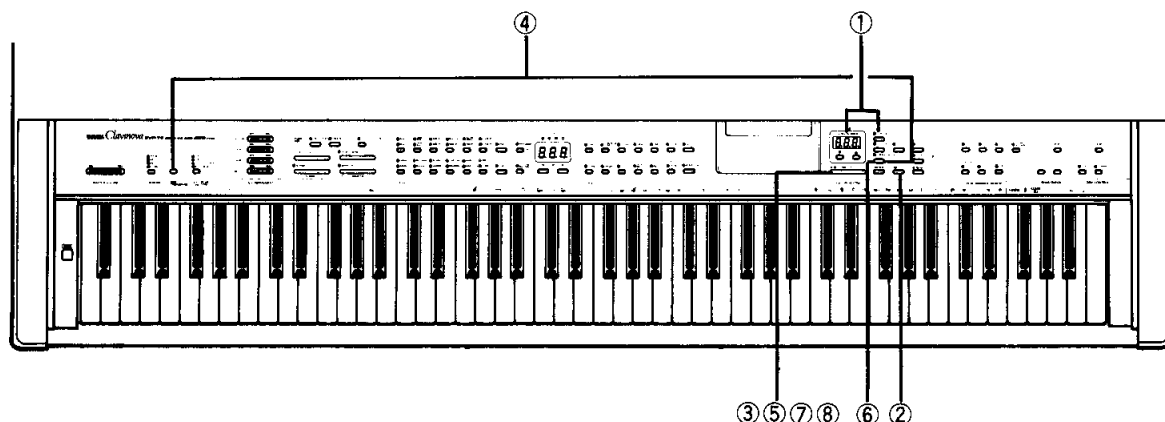
ディスクオーケストラのスタート/ストップボタン、またはスタート/ストップボタンを押して停止させます。完全に終了させる場合は、フレーズリピートボタンを押してランプを消灯させてください。

### [こんなこともできる!]

- ・繰り返し演奏中でも、自由にテンポや音色を変えることができます。
- ・繰り返しでも変更したままの状態でも演奏されますので、テンポを変えて練習することもできます。元に戻したい時は、一度ソングセレクトボタンをオフにしてから上記手順1からやり直してください。

## ●リピート練習する(A-Bリピート機能)

フレーズ番号にとらわれずに、曲中の2点間(A点とB点)を指定して、リピート練習が可能です。繰り返しの開始ポイントがA点、終了ポイントがB点です。



### 1 2点間指定の準備

- ①レッスンしたい曲を指定します。
- ②▶送りボタンを押してA点の少し前まで進めます。
- ③曲をスタートさせます。

### 2 A点とB点を指定します。

- ④自動演奏音を聴き、A点とB点が来たらMIDI/トランスポートボタンを押しながら、それぞれフレーズリピートボタンを押します。(A点を指定した時点でフレーズリピートボタンのランプが点滅し、B点を指定すると消灯します。)
- ⑤曲を停止させます。

### 3 リピート練習の開始

- ⑥フレーズリピートボタンを押します(フレーズリピートボタンのランプが点灯し、ソングナンバー表示器にA-bのように表示されます)。
- ⑦演奏をスタートさせます。繰り返し練習しましょう。

### 4 A-Bリピート練習の終了

- ⑧演奏を停止させます。
- ⑨完全に終了させる場合は、フレーズリピートボタンを押してランプを消灯させてください。

## ●録音用ディスクへのコピー (マイレパートリーづくり)

ディスクオーケストラコレクションの曲を、録音用のフロッピーディスクにコピーできます。右手(トラック1)、左手(トラック2)パートは自動的に除いてコピーされますので、後でオーケストラの伴奏をバックに自分の演奏を録音できます。

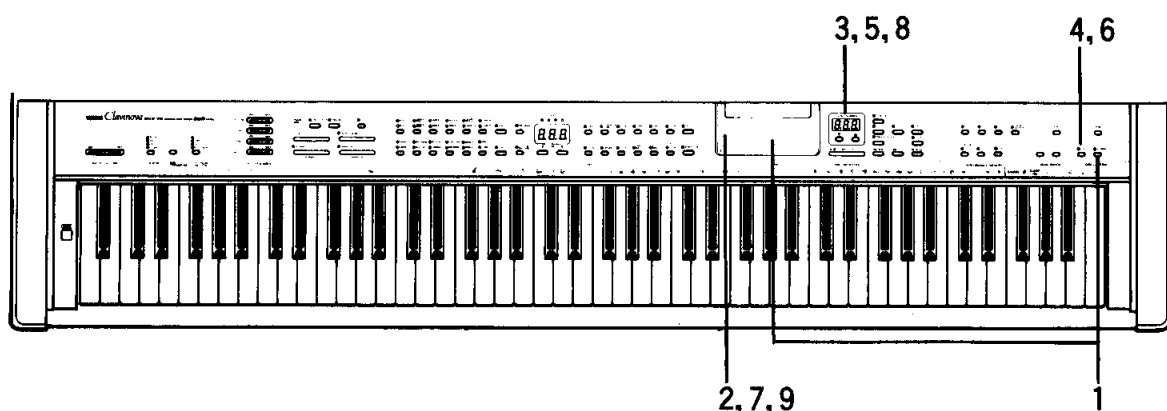
★一般のディスクに1曲のみコピーできます。

#### [注意!]

- ・曲番号を変更すると、A-Bリピート設定は解除されます。

#### [補足]

- ・再度A-Bリピートさせたい場合は、フレーズリピートボタンを押してA-bを表示させます。ただし、曲番号変更後は、再びA点とB点を指定する必要があります。
- ・A-Bリピート練習の場合は、カウント音は鳴りません。



**1** コピー先の録音用ディスクをフォーマットします。  
(49ページ参照)

**2** コピー元の曲が入っているディスクオーケストラコレクションのディスクを、ディスク挿入口に差し込みます。

**3** ソングナンバーボタンでコピーしたい曲の番号を指定します。

**4** コピーボタンを押します。  
すると、ランプが点滅を始め、ソングナンバー表示器はc0の表示になります。

**5** ソングナンバーボタンで、コピー先の曲番号を指定します。  
c1～c60の範囲の曲番号を指定してください。  
★この時点であれば、スタート/ストップボタンを押すことによりコピーを解除できます。

**6** もう一度コピーボタンを押します。  
するとディスク挿入口横のユーズランプが点灯し、ディスクオーケストラコレクションのディスクから曲が読み込まれます。読み込みが終了と、ソングナンバー表示器がd2(録音用ディスクの挿入要求)の表示になります。

**7** ディスクオーケストラコレクションのディスクを取り出し、コピー先のフロッピーディスクを差し込みます。

すると、ソングナンバー表示器に、Y/nの確認表示が出ます。

★次の操作8を行うと、コピー先のディスクにすでに録音されている曲は全て消去された上でコピーされます。すでに使用中のディスクにコピーする場合は、その中身に充分注意してください。

**8** コピー先のディスクを再確認してOKであれば、▼ボタンを押します。  
コピーが開始されます。

**9** d1が表示されたら  
本ページ下欄の[補足]をご覧ください。

**10** コピーが終了すると……  
ランプが消灯し、ソングナンバー表示器は通常の曲番号表示に戻ります。

**11** 再生または録音  
コピーした曲を自動演奏させながら、自分で右手パートおよび左手パートを弾いてトラック1および2に録音できます(ピアノABCやソロスタイルプレイ機能を使った場合とは違ったアレンジによる、自分だけのオリジナルディスクを作ることができます)。

#### [補足]

・コピー元のソングの演奏時間が長かったり、1曲の中でたくさんの機能を使っている場合は、一度にコピーできないことがあります。その場合、操作8の後d1(ディスクオーケストラコレクションのディスク挿入要求)の表示になります。

この時は、次の操作をしてください。

d1が表示されたら……ディスクオーケストラコレクションのディスクをディスク挿入口に差し込んで、d2表示になるまで待つ。

d2が表示されたら……コピー先のディスクをディスク挿入口に差し込んで、d1または曲番号表示になるまで待つ。  
曲番号表示に戻ったら…コピーは終了です。

#### [注意!]

・ディスクオーケストラコレクションの曲のデータは、ディスクスタイルのコピーデータが入っているディスクには、コピーできません。  
・操作11の方法で作成したオリジナルディスク内の演奏は、同一ディスク内でのコピーは可能ですが、他のディスクへのコピーはできません。